

# 六 大東亜會議

834

昭和18年5月31日 御前會議決定

## 「大東亜政略指導大綱」

付記一 昭和十八年五月二十七日付、上村政務局長作成

〔大東亜政略指導大綱ニ關スル件〕

二 昭和十八年五月三十九日、大本營政府連絡會議

右大綱決定にかかる大本營政府連絡會議での

討議経過について

三 昭和十八年五月三十一日、御前會議用資料

右大綱に関する東條首相説明

(口)對華方策

既定方針ニ據ル

(イ)對滿方策

一、帝國ヲ中心トスル日滿華相互間ノ結合ヲ更ニ強化ス

之ガ爲

一、對滿華方策

二、攻略態勢ノ整備ハ帝國ニ對スル諸國家諸民族ノ戰爭協力

強化ヲ主眼トシ特ニ支那問題ノ解決ニ資ス

第二 要 領

ルヲ目途トス

六 大東亜會議

一、帝國ハ大東亜戰爭完遂ノ爲帝國ヲ中核トスル大東亜ノ諸

國家諸民族結集ノ政略態勢ヲ更ニ整備強化シ以テ戰爭指

導ノ主動性ヲ堅持シ世界情勢ノ變轉ニ對處ス

政略態勢ノ整備強化ハ遲クモ本年十一月初頭迄ニ達成ス

右ニ關聯シ機ヲ見テ國民政府ヲシテ對重慶政治工作ヲ實

施セシムル如ク指導ス

前項實行ノ時機ハ大本營政府協議ノ上之ヲ決定ス

### 三、對泰方策

既定方針ニ基キ相互協力ヲ強化ス特ニ「マライ」ニ於ケ

ル失地回復經濟協力強化ハ速ニ實行ス

「シャン」地方ノ一部ハ泰國領ニ編入スルモノトシ之ガ

實施ニ關シテハ「ビルマ」トノ關係ヲ考慮シテ決定ス

### 三、對佛印方策

既定方針ヲ強化ス

### 四、對緬方策

昭和十八年三月十日大本營政府連絡會議決定緬甸獨立指

導要綱ニ基キ施策ス

### 五、對比方策

成ルベク速ニ獨立セシム

獨立ノ時機ハ概ネ本年十月頃ト豫定シ極力諸準備ヲ促進

ス

六、其他ノ占領地域ニ對スル方策ヲ左ノ通定ム

但シ(二)以外ハ當分發表セズ

(イ)「マライ」「スマトラ」「ジャワ」「ボルネオ」「セレベ

ス」ハ帝國領土ト決定シ重要資源ノ供給源トシテ極力

之ガ開發竝ニ民心ノ把握ニ努ム

(ロ)前記各地域ニ於テハ原住民ノ民度ニ應ジ努メテ政治ニ參與セシム

(ハ)「ニューギニア」等(イ)以外ノ地域ノ處理ニ關シテハ前二號ニ準ジ追テ定ム

(二)前記各地ニ於テハ當分軍政ヲ繼續ス

### 七、大東亞會議

以上各方策ノ具現ニ伴ヒ本年十月下旬頃(比島獨立後)大東亞各國ノ指導者ヲ東京ニ參集セシメ牢固タル戰爭完遂ノ決意ト大東亞共榮圈ノ確立トヲ中外ニ宣明ス

### (付記一)

大東亞政略指導大綱ニ關スル件

昭和一八、五、二七  
上村政務局長記

一、五月二十六日大本營連絡會議ニ於ケル意見交換ニ基キ翌二十七日午前關係省事務連絡會議アリ、其ノ結果二十七日午後書記官長主催ノ下ニ陸海軍兩軍務局長、外務政務、大東亞總務兩局長及鈴木總裁出席、事務當局案ニ付テ審

議ス（事務當局會議ニハ大東亞省ヨリノ出席ナカリシ爲書記官長室ノ會議ニ於テ初メテ大東亞省ノ意見開陳アリタリ）

二、別紙第一號原案ニ付問題ニナリタルハ左ノ通り

(1) 日華基本條約ヲ同盟條約ニ改訂スル點

竹内總務局長ヨリ、日華基本條約中ニハ種々複雜ナル規定アリ勿論此ノ際廢止シ得ルモノ多數アルモ又必要ナル規定モ存ス、其ノ上北支蒙疆ノ特殊性或ハ海軍等ノ軍事基地問題ニ關スル困難ナル問題アリ、之等困難ナル問題ヲ此ノ際一舉ニ解決シ、之ヲ撤廢スルト云フコトナラ大東亞省トシテハ一舉ニ同盟條約ニ改訂スルコトニ異議ナキモ、若シ之之等ノ問題ヲ殘シ、之ヲ同盟條約ノ中ニ織込ムト云フガ如キ考ナラバ同盟條約ニスルコトハ不贊成ナリ、寧口基本條約ヲ改訂スルニ止マル方安全ナリト思フ旨述ブ

(2) 「國民政府ヲシテ對重慶政治工作ヲ實施セシムル如ク指導ス」ナル書キ方ニ付テハ特ニ上村ヨリ右ハ二十六日ノ連絡會議ニ於ケル詔令ノ趣旨ニ反ス連絡會議ニ於テハ一應「國民政府カ對重慶政治工作ヲナスコトハ妨ヶス」ト纏マリタル次第ナルコトヲ指摘セリ  
右ニ對シ星野及鈴木ヨリ氣持ハ全ク其ノ通リナリ但シ本大綱ハ日本政府ノ肚ヲ決メムトスルモノナルヲ以テ南京ノスルコトハ妨ヶスト云フタケノ決定ニテハ結局ナリ、但シ技術的ニ種々難點モアル模様ナレバ此ノ際ハ同盟條約ト迄一舉ニ進マズ基本條約ニ思ヒ切ツタ改訂ヲ加フレバ十分ナリト思フ旨述ブ

岡、佐藤兩軍務局長モ技術的ニ基本條約ヲ同盟條約トシ間然スル所ナシトノコトナラハ別ニ反対セサルモ、種々研究ノ要モアル模様ナルニ付肚ハ「出來ルタケ同盟條約トスル積リ」ニテ進ムルコトトシ、唯萬一爲餘裕ヲ取ル書キ方トシ「日華基本條約ヲ改訂シ要スレハ日華同盟條約ヲ締結ス」ト云フ最初ノ原案ノ字句ヲ採用スルコト安全ナルヘシトノ意見ヲ述ヘ此ノ點ハ尙議論ヲ續ケタルモ右ニテ一應落着セリ

鈴木總裁ハ之ニ對シ、北支滿蒙ノ特殊性ノ如キハ此ノ際之ヲ撤廢スルダケノ覺悟ナクシテハ對重慶工作モ出来ズ、又本案ノ狙フ日支一体化ノ理想モ實現出來ザル譯ナレバ當然斯カル舊式ノ考ヘ方ハ此ノ際解消スベキ

日本ハ何モセスト云フコトトナリ我カ方ノ氣持ハ少シ  
モ南京ニ通セサル譯ナリ仍テ我カ方ノ肚トシテハ南京  
ヲシテ工作ヲ實施セシムル如ク指導スト書ク次第ナリ  
但シ我カ方ノ肚ハ前記ノ通リナルニ付特ニ南京ヲツツ  
ク意味ハナン殊ニ國民政府ノ指導ハ在南京帝國大使ヲ  
シテ行ハシメ大使以外ノ者ハ本件ニ關シテハ一切南京  
側ニ接觸セサルコトトスヘク之カ爲本大綱案決定ノ上  
ハ直チニ大使ヲ歸朝セシメ直接右我カ方ノ意向ヲ説明  
シ之ニ基キ大使ヲシテ適宜南京側ヲ指導セシムルコト  
トスヘシ從ツテ此ノ際字句ニ付議論スレハ種々面倒ナ  
ル論議モアルヘキカ之ヲ執行スルハ大使ノ裁量ニ依ル  
次第ナルニ付此ノ際餘リ文章ニ拘泥スル必要ナカルヘ  
キ旨星野及鈴木ヨリ繰返シ説明アリタリ

尙對重慶政治工作ノ狙ハ主トシテ重慶ノ切崩シニシテ  
全面和平ノ見込ハ殆ト無キモサリトテ全面和平ヲ排除  
スル意味ニテハナク是カ出來得レハ結構ナリ又萬一全  
面和平ナリ蔣カ南京ニ來レル場合蔣ヲシテ對米英宣戰  
ヲナサシムルコトハ之又極メテ困難ナルヘクスカル場  
合ニハ必スシモ對米英宣戰ヲ強要スル要ナク實質的ニ

ハ飽ク迄米英ノ支那ニ於ケル勢力排除ヲ嚴守シツツ形  
式的ニハ中立ノ立場ヲ執ラシムルモ差支ナカルヘシ之  
等ノ場合ヲ考慮セハ此ノ際同盟條約ヲ締結スルコトハ  
時期早尚ノ感モアル次第ナル旨星野、鈴木ヨリノ意見  
ノ開陳アリタリ

(イ)對泰方策 連絡會議ニ於ケル意見交換ノ結果ニ基キ  
「シャン」地方ノ一部ヲ泰國領ニ編入スル原則ヲ此ノ  
際決定シ單ニ之カ實施ノ時期ヲ別途考慮スルコトトシ  
以テ泰ヲシテ無用ノ危懼ヲナサシメサルコトセリ

(二)對比方策 原案ニハ獨立ノ時期ヲ概ナ九、十月ノ候ト  
豫定セルモ獨立準備ノ爲ニハ相當ノ日數ヲ要ストノ議  
論モアリタルニ付今回ハ十月頃ト豫定スルコトニ修正  
セリ但シ佐藤陸軍ヨリ參謀總長ハ最後迄一日モ速カナ  
ラムコトヲ希望シ九、十月ノ候ヲ十月頃ト變更スルコ  
トニ反対シ居タル旨説明アリタリ

尙臨時議會等ニテ説明ノ場合ハ獨立ノ時期ヲ本年内ト  
云フコトニ了解成立セリ

(ウ)第六項ニ付テハ些少ノ字句ノ修正アリタルカ實質的ノ  
變更ニハ非ス

三、本大綱案ノ決定ハ連絡會議ノミニテ足ルヤ將又御前會議

ノ決定トスル要アリヤトノ議論出テタルカ(イ)第六項「マ

ライ」「スマトラ」等廣大ナル地域ヲ帝國領土ト決定ス

ルコトハ極メテ重要ナル問題ナル上(ロ)國民政府ヲシテ對

重慶政治工作ヲナサンムルコトモ曩ニ對重慶和平工作ヲ

セサル旨ノ御前會議決定ニ變更ヲ加フルコトトナルヲ以

テ之等ノ點ヨリ考慮シ、今回ノ大綱モ之ヲ御前會議決定

トルコト至當ナルヘシトノ結論ニ到達セリ

本大綱案ハ二十九日(土)ノ連絡會議ニ附議決定ノ豫定ナ

リ

(付記二)

連絡會議經過

昭和一八、五、二九

○佐藤陸軍軍務局長ヨリ議題タル大東亜政略指導大綱ニ付  
説明アリ

(イ)對華方策ニ付テハ日華基本條約ノ改訂トスルヤ將又同盟條約ニ切替ヲナス方可ナルヤ、尙主トシテ技術的ニ研究ノ餘地アリ、仍テ本提案ニ於テハ何レニモナン得ル様「日華基本條約ヲ改訂シ要スレハ日華同盟條約ヲ

締結ス」トシ置キタリ、從來ノ研究ニ於テハ出來得レ

ハ日華同盟條約トシタキ考ニテ進ミ居レリ

(ロ)對重慶工作ハ、南京ヲシテ國內問題トシテナサシムト

ノ趣旨ヨリ對重慶政治工作トセリ、尙對華方策末段、

本件實行ノ時期ハ再ヒ御前會議ニテ決定スル煩ヲ避ケ

ル爲、特ニ連絡會議ニテ決定ストシタリ

(ハ)比律賓獨立ノ時期ハ種々議論アリタルカ、速ニ實行シ

タキ考ヘヨリ本年十月頃ト豫定セリ、但シ外部ニ言フ

場合ニハ本年中ト云フカ如ク幅ヲ持タス積リナリ

(二)大東亞會議ニ招集スルハ獨立國ノミトシタリ、從ツテ特ニ「大東亞各國」トセリ

(イ)第六項ノ(ロ)以外ハ當分發表セストアルハ、當分トハ適當ノ時期迄發表セストノ意ニシテ間モ無ク發表スト云フカ如キ考ニハ非ス、(外務大臣ヨリ、然ラハ當分ナル用語ハ不要ナルヘキ旨發言アリ)

(東條總理ヨリ)(イ)「マライ」等ノ領土編入ノ點ハ國際的關係モアリ發表セサル趣旨ナルニ付議會等ニ於テモ一切言ハサルコトシタキ旨注意アリ)

(ロ)本案ハ基本條約ノ改訂・對重慶工作・「マライ」等ノ

領土編入・比島獨立・大東亞會議招集等ノ重要問題ニ  
鑑ミ、之ヲ御前會議ニ於テ決定スルコトトシタシトノ  
趣旨ヲ説明セリ

○杉山參謀總長ヨリ、本案第六項ハニハ特ニ「ニユーギニ  
ヤ」ノ名ヲ出シ居ル所、「ニユーギニヤ」作戰ハ既ニ一  
年來特ニ進捲シ居ラス、且下ノ所進捲スル見込モ立チ居  
ラサル狀況ナルニ付茲ニ特ニ「ニユーギニヤ」ヲ採上ケ、  
掲記スルコトハ將來ノ作戰ヲ拘束セラルカ如キ感シモア  
リ、參謀本部トシテハ贊成シ難シ、單ニ(イ)以外ノ地域ト  
シ、「ニユーギニヤ」ハ右地域中ニ包含セシム趣旨トシ  
差支ナカルヘシト思フ旨述ヘタルカ、軍務局長ヨリ、作  
戰ヲ拘束スルカ如キ意向ナキ旨答辯アリ、又島田海相ヨ  
リ「ニユーギニヤ」ハ海軍軍政下ニ於ケル相當大ナル地  
域ナルヲ以テ軍政責任ノ立場ヨリ特ニ掲記ヲ希望スル次  
第ナル旨ノ意見アリ、其ノ後參謀次長ヨリモ「ニユーギ  
ニヤ」ノ字句削除方意見ノ開陳アリタルモ其ノ儘トナリ  
タリ

○賀屋藏相、國際情勢樞軸ニ有利ナラサル際、再ヒ對重慶  
工作ヲナスコトハ我カ方ノ弱味ト見ラル虞アリ、尚之  
カ運用ニ當リテハ從前ノ如キ浪人等ノ跳梁ヲ防ク様注意  
ノ要アル旨述ヘ外務大臣ヨリ之カ運用ニハ慎重ノ手續ヲ  
要ス、即チ一方南京側ニ於テハ對重慶工作ニ付テハ周佛  
海、陳公博ハ贊成ナルカ汪精衛ハ反對ノ意向ヲ有シ、他  
方重慶其ノ他ニ對スル響キモ考慮ノ要アリ從ツテ南京ト  
ノ連絡ハ在南京帝國大使一人トスル必要アル旨ヲ述フ

○參謀總長、自分モ對重慶工作ハ一本ノ筋ニテナスヲ要ス、  
從ツテ大使一人ノ手ヲ經テ南京ト連絡スヘキモノナリト  
考フ、但シ軍トシテハ軍ノ立場ヨリ作戰ニ呼應シ、切崩  
ルカ、東條總理ヨリ曩ニ帝國トシテハ和平工作ヲセサル

旨ノ決定アリタルモ、其ノ後事態ニ幾分變化アリ、且ツ  
元來南京政府ハ和平政權トシテ成立セルモノナルヲ以テ  
此ノ際國內問題トシテ政治工作ヲナスコトニ付テハ干涉  
セサルコトトセル次第ナリ、尙政治工作中ニ和平工作ヲ  
含ムヤトノ質問ニ對シテハ、之ヲ肯定セサルヲ得ス、尤  
モ南京ノ工作或ル程度進捲セル際ニハ帝國力外交ノ手ト  
シテ之ヲ採上ケルコトハ是アルヘク、右ハ對重慶ノ外交  
ノ手ナリト考ヘ居レル旨説明アリ

工作ヲナシ居リ、右ハ純然タル作戦ノ立場ヨリノ仕事ナルカ政治工作トモ關係生スヘキニ付在南京大使ト在支軍司令官トハ常ニ緊密ナル連絡ヲナス要アリト存ス、之カ爲今後ハ關係方面間ニ於テ連絡方法等ニ付協議ノ要アリト思フ旨述フ

○東條總理ヨリ、日華基本條約改訂ノミニテ十分ナリヤトノ質問アリ

○重光外相、自分ハ此ノ際同盟條約ニ切替フルコト絕對ニ必要ナリトノ意見ナリ、此ノ點ニ付テハ何レ十分ニ自分ノ意見ヲ御説明シタキ考ナルカ、之ヲ要スルニ支那トノ關係ハ何レノ方面ヨリモ非難シ得サルカ如キ狀態トナシ置カサルニ於テハ今回決定セムトシツアル大政策ニ魂カ入ラサル次第ナリ、今日ハ餘程大キナ手ヲ打ツヘキ時期ナリト考フルヲ以テ堂々ト世界ニ我カ政策ヲ示ス見地ヨリモ是非同盟條約トスル必要アリト思フ旨述フ

○東條總理、自分モ戰爭指導上今日ニ於テハ餘程大キナ手ヲ打ツ必要アリト考ヘ居レリ、然ルニ本案ニハ「要スルハ同盟條約ヲ締結ス」トアリ、同盟條約トセサルコトヲモ考ヘ居ルコトヲ示シ居リ日本案ノ如キ大キナ手ヲ打

タムトスル際、對支方針ニ於テ不徹底トナルハ甚々面白カラスト考フ、對支政策ハ對世界政策ニシテ重慶ニ對スル大ナル手ナリ、從ツテ此ノ政策ハ蔣介石カ來ルト來ラサルトニ拘ラス正々堂々トシテ打ツヘキ手ナリト考フ旨述フ

○青木大東亞相、自分ハ基本條約中ニ含マレル北支、蒙疆其ノ他ノ瘤ヲ此ノ際全部切り取ル意図ナラハ同盟條約ニ切替フルコトニハ贊成ナルカ、然ラストノコトナラハ、此ノ際基本條約ヲ廢棄スルコトニハ疑問ヲ有スル旨述フ

○東條總理、本件ヲ事務的ニ考フルハ誤リナリ、此ノ政策ハ總テ大キナル政治目的ヨリ考慮セラルヘキモノナルヲ以テ戰時中必要ナルコトハ軍事協定等別ニ方法ヲ講シ得ヘク、從ツテ大ナル政治目的ヨリ考慮シ、一舉ニ同盟條約トナスヘキモノナリト考フ旨述フ

○賀屋藏相、戰爭遂行ノ爲ニハ經濟總力ノ結集モ必要ニシテ、從ツテ日本ノ意思ニ依リ動クカ如キ體型必要トスヘク軍事的ニモ斯カル必要アルヘキヲ以テ基本條約ヲ廢棄スルコトニ依リ斯カル基底ヲ失フカ如キコトトナリテハ事重大ナリト考フル旨述フ

○鈴木總裁、戰爭遂行中軍事政治ノ各方面ニ亘リ、特殊ノ

拘束ヲ受クルコトハ支那側トシテモ當然覺悟シ居レリ、

但シ支那側ノ心配シ居ルハ戰爭終了後モ永久ニ斯カル拘束ヲ受クヘシトノ點ナリ、仍テ戰時中ハ特別ノ拘束アル

モ、平時トナレハ是等ハ全部解除セラルトノ趣旨ヲ明

カニスル必要アリ、從ツテ今日從來ノ如キ考ニテ北支、

海南島等ノ問題ヲ論シ居ルヤウニテハ今日最モ必要トス

ル支那民心ノ把握ハ不可能ナリ、此ノ點ヲ明確ニスル必

要アル旨述フ

大體右ニテ討論ヲ終リ、別添ノ通り修正決定セリ

尙本件ニ關スル御前會議ハ三十一日午後二時開會スルコトトナリ説明ハ一應總理、外相、大東亞相ニ於テ分擔スルノ案提議セラレタルカ、外相ヨリ總理一人ニテ十分ナルヘキ旨ノ意見開陳アリ、右ニ決定セリ

御前會議ニ於ケル總理説明案ハ三十日關係者事務當局會同研究シ、三十一日早朝書記官長主催ノ幹事會議(關係省局長)ニ於テ一應決定、之ヲ各々上司ニ提出セリ

尙原樞相ヨリ豫メ四項目ニ亘ル質問アリ、之ニ對スル答辯案ヲモ審議セリ

### (付記三)

第十回御前會議内閣總理大臣說明

(昭和十八、五、三一)

唯今ヨリ開會致シマス。

御許シヲ得タルニ依リマシテ、本日ノ議事ノ進行ハ、私ガ

之ニ當リマス。

先づ私ヨリ、本日ノ議題ニ付キマシテ御説明致シマス。

大東亞戰爭完遂ノ爲ノ帝國ノ政略指導ト致シマシテハ、日獨伊ノ緊密提携ト大東亞ノ諸國家諸民族ノ結集トガ最モ重要ナルモノデアリマシテ、從來モ此ノ見地ヨリ色々ト努力シテ參ツタノデアリマスガ、世界戰局ノ推移ニ鑑ミ、機ヲ逸セズ速ニ、此ノ政略態勢ヲ更ニ整備強化スルノ要愈々緊切ナルモノガアルト存ゼラレルノデアリマス。

獨伊トノ提携強化ニ關シマシテハ曩ニ派遣シタル連絡使ヲシテ且下柏林及羅馬ニ於テ大使及陸海軍武官ヲ輔佐セシメ、獨伊側ト連絡協議中デアリマス。

大東亞諸國家諸民族ノ結集ニ關シマシテハ、滿洲國ヲ初メトシ諸國家諸民族ハ帝國ノ大東亞戰爭遂行ニ同調協力致シ

テ居ルノデアリマスガ、更ニ之ガ結集ヲ一段ト強化スルヲ  
緊要ト認メマシテ本議題ノ御審議ヲ煩ハス次第デアリマス。  
先ツ議題ヲ朗讀致サセマス。

(議題朗讀)

一、方針

大東亞ノ諸國家諸民族ノ結集ハ大東亞戰爭完遂ノ爲諸國  
家諸民族ノ戰爭協力強化ヲ示眼トシタルモノデアリマシ  
テ、特ニ之ガ具現ニ依ツテ支那問題ノ解決ニ資セントス  
ルモノデアリマス。

特ニ戰爭勃發時ニ於ケル詔書ニモ又私ガ滿洲國訪問ノ  
當時拜謁ヲ許サレタル時ノ陛下ノ御言葉ニモコノ御思  
召ヲ拜察シ得ルノデアリマシテ感激措ク能ハザル次第  
デアリマス。

要スルニ滿洲國ハ帝國ヲ視ルニ親邦ヲ以テシ日滿ノ關  
係ハ既ニ同盟以上ノ關係デアリマシテ間然スル所ノナ  
イ状態デアリマス。

(口)對華方策

大東亞ノ政略態勢ヲ整備強化シ、世界情勢ノ推移如何ニ  
ルベク、此ノ見透シノツクハ概ネ十一月頃ト豫想セラレ、  
且米英ノ反攻ハ逐次熾烈化スルト思ハレマスノデ、速ニ  
拘ラズ、帝國ハ大東亞團結ノ力ヲ以テ、毅然トシテ戰爭  
指導ノ主動性ヲ堅持セントスルモノデアリマス。

二、對滿華方策

(1)對滿方策

曩ニ御決定ヲ仰ギマシタル「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對  
支處理根本方針」ニハ國民政府ノ充實強化並ニ其ノ對  
日協力ノ具現等ニ照應シ適時日華基本條約ニ所要ノ修  
正ヲ加フルコトヲ考慮スベキ旨定メラレテ居ルノデア  
リマス。

滿洲國ハソノ建國ノ精神ニ於テ帝國ト一德一心ノ關係  
ニアルノデアリマシテ、建國以來十年ヲ經テ異常ナル

國民政府ハ參戰以來各般ニ亘リ自疆ノ途ヲ講ジテ居リ  
マスルト共ニヨク帝國ノ眞意ヲ解シテ、大東亞戰爭完

發展ヲ遂ゲテ居ルノデアリマス。

大東亞戰爭以後ハ直接之ニ參戰ハ致シマセヌガ物心兩  
面ニ亘リ全力ヲ舉ゲテ帝國ニ協力シツツアルノデアリ

マス。

遂ニ協力シツツアリマスノデ、此際帝國ハ、「對支處理根本方針」ヲ更ニ徹底眞現セシムル爲右ニ即應スル

如ク別ニ定ムル所ニ據リマシテ日華基本條約ヲ改訂シ日華同盟條約ヲ締結セントスルモノデアリマス。

又對支處理根本方針ニハ「帝國ハ重慶ニ對シ之ヲ對手トスル一切ノ和平工作ヲ行ハズ狀勢變化シ和平工作ヲ行ハントスル場合ハ別ニ之ヲ決定ス國民政府モ亦帝國ノ態度ニ順應セシム」ル如ク定メラレタノデアリマスガ爾後對支處理根本方針竝ニ之ニ基ク諸施策ノ結果ハ逐次浸透シ、重慶側ニモ相當ノ動搖ヲ與ヘテ居ル狀況

デアリマシテ過般龐炳勳ノ國民政府參加モソノ一證左ト觀察セラレルノデアリマス。

一方重慶側ハ經濟的ニモ益々困窮ヲ加ヘツツアリマスノデ前述ノ對華諸方策等ノ進展ニ照應致シマシテ適時國民政府ヲシテ對重慶政治工作ヲ實施セシムル如ク指導スルコトト致シマシタ。然シナガラ重慶抗戰陣營ノ中樞ガ國民政府ノ政治工作ニ今遽ニ應ジ來ルコトハ尙望ミ難ク且其ノ時機ヲ誤ルトキハ寧ロ之ニ依ル害ガ少クナインデアリマス。依テ其ノ時機ニ關シマシテハ政

府ト統帥部トノ間ニ於テ協議決定スルコトト致シマス  
三、對泰方策

泰國ニ對シマシテハ其ノ獨立國タルノ体面ヲ保持セシメツツ之ヲシテ大東亞戰爭ノ遂行ニ衷心協力シ帝國ノ施策ニ積極的ニ協調セシムル如ク指導シツツアリマスガ、國民一般ハ戰爭ニ依ル生活ノ不自由ヲ動モスレバ「ピブン」政權ノ親日政策及日本軍ノ駐屯ニ由來スルガ如キ考ヲ抱キ敵性諸國ノ日泰離間策、反政府分子ノ策動ト相俟チ一般ノ對日空氣ハ必ズシモ満足スペキ狀態ニアリトハ言ヒ難イノデアリマス。

帝國トシテハ「ピブン」政權ノ困難ナル立場ト泰國民ノ心理的動向トニ鑑ミ、日泰同盟條約附屬祕密了解事項第一條ニ基キ日本軍占領地帶タル「マライ」ノ失地回復セシムルト共ニ經濟協力ヲ一層強化スルコトガ肝要デアリマス。

又「シヤン」地方ノ一部モ之ヲ泰國領ニ編入スルモノトシ之カ實施ニ關シテハ「ビルマ」ニ與フル影響等ヲモ較量ノ上其ノ時機及地域等ヲ決定スルヲ要スルノデアリマス。

### 三、對佛印方策

佛印ニ對シテハ帝國ノ大東亞戰爭遂行ニ實質的ニ利用スルト共ニ其ノ靜謐ヲ保持シ、敵側ノ策謀ヲ封殺シ、帝國ニ對スル各般ノ協力ヲ一層積極的ナラシムル如ク施策中デアリマシテ今日迄ノ所佛印當局ノ對日協力ニハ相當見ルベキモノガアルノデアリマスガ世界情勢ヲ反映シ且米英重慶側ノ執拗ナル宣傳等諸般ノ事情ニ因リ佛印側ノ同調的態度未ダ十分ニハ徹底スルノ域ニ達シテ居リマセンノデ益々前述ノ方針ヲ強化スルコトガ肝要デアリマス。

但シ佛印ヲ本國ヨリ離脱セシムル如キ極端ナル施策ハ大

東亞戰爭ノ現段階ニ於テハ之ヲ避ケルヲ要スルノデアリマス。

### 四、對緬方策

對緬方策ニ就キマシテハ昭和十八年三月十日大本營政府連絡會議決定「緬甸獨立指導要綱」ニ基キ施策中デアリマシテ、五月八日獨立準備委員會ヲ結成シ六月末準備完了ヲ期シ準備促進中デアリマス。

### 五、對比方策

比島ニ於テハ第八十一回帝國議會ニ於ケル比島獨立ノ再

確認ニ關スル帝國政府ノ聲明ニ依リ俄然對日信賴ノ度ヲ強メ行政府長官以下帝國ノ眞意ヲ解シ、治安ノ肅正行政ノ滲透ニ銳意努力中デアリマシテ大東亞共榮圈ノ一環トシテ更生シツツアリ其ノ一端ハ過般現地ニ參リマシテ私モ目ノアタリニ之ヲ見タノデアリマス。

依テ帝國ハ屢次ノ聲明ニ基キ之ヲ獨立セシムルコトシ其ノ時期ハ治安未ダ完カラザルモ、戰爭指導上ノ要請ト比島側ノ自發的協力促進ノ見地トヨリ概ネ本年十月頃ト豫定シ準備ヲ促進スルコトト致シマシタ。

### 六、其他ノ占領地域

「マライ」「スマトラ」「ジャワ」「ボルネオ」「セレベス」ハ民度低クシテ獨立ノ能力乏シク且大東亞防衛ノ爲帝國ニ於テ確保スルヲ必要トスル要域デアリマスノデ之等ハ帝國領土ト決定シ軍要資源ノ供給源トシテ極力之カ開發竝ニ民心ノ把握ニ努ムル所存デアリマス。之等ノ地域ニ於テハ當分ノ間依然軍政ヲ繼續致シマスガ原住民ノ民度ニ應ジ努メテ政治ニ參與セシムル方針デアリマシテ現ニ政治參與ヲ要望シテ居リマスル「ジャワ」ニ對シテハ特ニ之ヲ認メル積リデアリマス。而シテ本歸屬決定ハ敵側

ノ宣傳ノ資ニ供セラル等ノ虞ガアリマスノデ當分ノ間  
發表セザルコト致シマスガ原住民ノ政治參與ニ關シマ  
シテハ適宜之ヲ發表スルヲ適當ト考ヘテ居リマス。

「ニューギニヤ」等前述以外ノ地域ノ處理ニ就キマシテ  
ハ既ニ述ベマンタル所ニ準ジテ追テ定ムルコト致シマ  
ス。

#### 七、大東亞會議

以上各方策ノ具現ニ伴ヒ本年十月下旬(比島獨立後)大東  
亞各國ノ指導者ヲ參集セシメ、戰爭完遂ト大東亞共榮圈  
確立トノ牢固タル決意ヲ闡明シ以テ戰爭完遂ニ邁進ゼン  
トスルモノデアリマス。

以上ヲ以テ私ノ説明ヲ終リマス。



昭和18年10月2日 大本營政府連絡會議諒解

#### 「大東亞會議ニ關スル件」

#### ● 大東亞會議ニ關スル件

大東亞戰爭完遂ノ爲帝國ヲ中核トスル大東亞ノ諸國家結集  
ノ政略態勢ヲ更ニ整備強化スルノ要アルニ鑑ミ右政略態勢

ノ整備強化ニ資スル爲概ネ左記要領ニ依リ大東亞會議ヲ開  
催ス

#### 一、參集範圍

帝 國

滿 洲 國

中 華 民 國

「タ イ」國

「ビ ル マ」國

「フ ィ リ ツ ピ ノ」國

註 印度臨時政府代表ヲ陪聽者トシテ參加セシムルコト

アルヘシ

#### 二、參集代表ノ構成

帝 國 内閣總理大臣(大東亞大臣及外務大臣列席)

滿 洲 國 國務總理

中 華 民 國 行政院長

「タ イ」國 總理大臣

「ビ ル マ」國 總理大臣(國家代表タル者カ行政政府  
ノ首班タル資格ニ於テ)

「ファイリツ・ピン」 大統領（行政府ノ首班タル資格ニ於

テ）

第二日 議案採擇（日本文ヲ以テ本文トシ之ニ漢譯文及英譯文添附）

各國代表ハ全權委任狀ヲ所持セス

各國代表ノ隨員ハ必要最小限ニ止ム

帝國總理大臣挨拶

## 2. 用語

日本語ヲ正式用語トス但シ各國代表ノ發言ニ對シテ

ハ所要ノ翻譯ヲ附ス

## 3. 議事進行、議決

議長ハ全會期ヲ通シ日本國代表ヲ推薦セシム

議決ハ全員一致トス

## 4. 席次

國名ニ依ルイ、ロ、ハ順トス

會議ニ關聯アル行事亦同シ

## 5. 議事ハ原則トシテ公開トセス

會議ニ關スル發表ハ會議後成ルヘク速カニ之ヲ行フ

## 6. 招請狀

招請狀ハ十月中旬迄ニ發送スルコトトシ事前非公式

ニ内意ヲ通達ス

右招請狀ニハ議題トシテ「戰爭完遂ト大東亞建設ノ方途ニ關スル件」ヲ掲ケ各出先大使ヲシテ説明セシ

# 六 大東亞會議

議事日程  
第一日 帝國總理大臣挨拶  
議事ニ關スル各國代表所見開陳  
議案審議

六、議事日程其他  
1. 議事日程  
2. 用語  
3. 議事進行、議決  
4. 席次  
5. 議事ハ原則トシテ公開トセス  
6. 招請狀  
7. 會議ニ於テ協議ノ上牢固タル戰爭完遂ノ決意ト大東亞共榮圈確立ノ方針トヲ中外ニ闡明ス  
一應ノ原案ハ我方ニ於テ用意スルモ事前各國側ノ意見ヲモ充分參酌シテ提案スルコト

三、時期  
昭和十八年十一月五日ヨリ一日間ト豫定ス  
四、場所  
東京  
五、議題  
戰爭完遂ト大東亞建設ノ方針ニ關スル件  
會議ニ於テ協議ノ上牢固タル戰爭完遂ノ決意ト大東亞共榮圈確立ノ方針トヲ中外ニ闡明ス  
一應ノ原案ハ我方ニ於テ用意スルモ事前各國側ノ意見ヲモ充分參酌シテ提案スルコト

七、發表アル迄極祕トシ特ニ防諜ニ留意セシム

八、招請狀ヲ發スルコト致度所存ナルモ開催期日及準備ノ

關係上本月中旬迄ニハ右招請狀發送ノ運ヒト致度ニ付前記  
内諾取付ハ即急(遲クトモ本月十日迄)ヲ期待スル次第ナリ  
一、本會議ノ目的ニ關シ

昭和18年10月4日 青木大東亞大臣より  
在満州國梅津大使、在中国谷大使、  
在タイ坪上大使他宛(電報)

大東亞會議開催につき任國政府より參加内諾

取付け方訓令

付 記 昭和十八年十一月、大東亞省總務局總務課作

成、「大東亞會議開催ニ關スル經緯概要(執務  
報告)」より抜粹

大東亞會議への参加国同意取付けに関する予  
備交渉経緯について

本 省 10月4日発

合第二〇四一號(館長符號扱、緊急)  
(〔編註〕)

今般帝國ハ別電合第二〇四二號ノ要領ニ依リ大東亞會議開  
催ノ方針ヲ決定セリ就テハ右別電要領ト共ニ左記諸點御承  
知ノ上大至急貴任國政府ニ對シ本件會議開催ニ關スル我方

内意ヲ通達シ會議參加ニ付テノ先方ノ内諾取付方御配意ノ  
上結果回電アリ度我方ニ於テハ右結果ヲ俟ツテ改メテ正式

二、參集國及代表ノ構成ニ關シ

參集國及代表ノ構成ハ別電要領一及二ノ通リト致度殊

二參集代表ニ付テハ本件會議ノ意義及其ノ重要性ニ鑑  
ミ要領記載ノ政府首腦者カ本人自ラ出席スルコトヲ特  
ニ重視スル次第ナルニ付此點先方ノ同意取付方極力御  
盡力アリタシ

帝國側ハ主催國タル關係モアリ代表タルヘキ總理ノ外  
大東亞大臣及外務大臣列席ノ筈ナリ

隨員ニ付テハ諸般ノ便宜上必要最少限ニ止ムル趣旨ト  
致度キモ具體的員數ニ付テハ各國夫々ノ事情モアルヘ  
ク要ハ右趣旨ノ下ニ各國ニ於テ適宜處置セラレタキ考  
ナリ尤モ右員數ハ當方準備ノ都合モアリ成ルヘク早目  
ニ通報方希望ス

印度臨時政府成立ノ場合其ノ首班ヲ陪席セシムルノ件  
ハ之カ實現ノ運ヒニ至ル様致度尤モ參集各國代表ト同  
資格ニ於テニアラス陪席者ノ資格ニ於テスルコトヲ考  
慮シ居レリ  
尙會議ノ終末期近ク議案採擇等ノ段階ニ於テ在京樞軸  
國外交代表者ノ陪席ヲ考慮シ居レリ

### 三、會議期日ニ關シ

會議開催ノ期日ハ本件會議ノ趣旨ニ鑑ミ慎重考慮ノ結

果十一月五日ヨリ二日間トセル次第ナリ參集各國側ニ  
於テ夫々ノ都合ハアルヘキモ我方トシテハ右開始期日  
ハ變更セサルコト致シ度キニ付右御含ミノ上先方ノ  
同意取付方御取計アリタシ

### 四、議題ニ關シ

議題ニ關シテハ別電要領五記載ノ通ナルカ採擇議案ノ  
内容及形式(共同聲明等)ニ付テハ追テ我方草案ヲ事前  
各國側ニ内示シテ各國側意見ヲ徵シ會議前略ホ成案ヲ  
用意シ置キタキ意嚮ナリ但シ條約ノ締結ハ豫想シ居ラ  
ス(從テ各國代表ハ全權委任狀ノ所持ヲ要セス)

議題ニ關スル各國代表所見ニ關シテハ其ノ内容ノ翻譯、  
開陳時間等會議開催前ニ成ルヘク前廣ニ連絡打合セ置  
クコト致度

### 五、會議不公開ノ原則ニ關シ

會議ハ原則トシテ公開セサルコトスルモ審議終了ノ  
上最後ニ議案採擇等ノ場合ニハ一定ノ制限ノ下ニ公開  
スルヲ適當ト思考シ居レリ

### 六、席次ニ關シ

席次ニ關シテハ別電要領六、ノ4記載ノ通國名ニ依リ

「イロハ」順ト致度從來一般ニ歐米等ニ於ケル國際會議ニ於テハ「アルファベット」順ニ依ル慣例アルコト

御承知ノ通ナル處本件會議ニ於テハ右「アルファベッ

ト」順ニ代フルニ「イロハ」順ヲ以テスルコト適當ト

認メタル次第ナルニ付先方ノ諒解ヲ得ル様適宜説明セラレタシ

六、機密保持ニ關シ

本件ハ敵側ノ妨害介入等ヲ考慮シ嚴ニ極祕裡ニ進ムル必要アルニ付機密保持ニ付テハ特ニ嚴守方先方ニ注意シ置カレタシ

爾他ノ事項ニ關シテハ所要ニ應シ追電スヘシ

編注 本書第835文書と同内容につき省略。

### (付記)

豫備交渉經緯

#### (1) 中華民國

中華民國政府ニ對シテハ在南京帝國大使ヨリ十月七日午後汪主席ト會見ノ上帝國政府訓令ノ趣旨ヲ逐一説明シ本

會議ニ參加方申入レタル處主席ハ全部之ヲ了承シ欣然參加方内諾セリ

#### (2) 「タイ」國

(一) 在「タイ」帝國大使ハ十月六日午後「ピブン」總理

(「ウイチット」外相陪席)ト二時間ニ亘り會談具サニ

帝國政府訓令ノ趣旨ヲ説明シ會議出席方說得ニ努メタ

ル處「ピブン」ハ會議ノ重要性ハ充分之ヲ了解セルモ

自分ノ健康狀態ハ日本ヘノ往復ニハ到底堪ヘサルモノ

テアリ自分ノ身體ハ外見ハ壯健ノ如ク見ヘルモ現在ノ

總理ノ劇務ニ堪ヘサルカ如キモノアルハ自分ノ妻ノミ

カ之ヲ知ル狀態ナリスル狀態ノ爲ニ自分ハ總理及軍最

高指揮官トシテノ責任モ充分果シ得サランコトヲ惧レ

居ル爲從來屢々辭職ヲ考ヘタルコトアルモ其ノ都度内

政ノ都合上決行シ得サリシ次第モアリ今回ノ機會ニ於

テ日本カ飽迄モ總理ノ出席ヲ求ムルニ於テハ自分ハ直

ニ議會ヲ召集シ自己ノ辭職ト後繼者ノ決定ヲ諮リ右後

繼者カ總理トシテ會議ニ出席スルコトナルヘシト述

ヘタルカ同席ノ「ウイチット」外相ハ言ヲ插ミ「ピブン」總理ハ日本ニ對シ凡ユル協力ヲ爲スニ努力シ來レ

ルカ其ノ健康狀態ハ洵ニ總理自身ノ言ノ如クニ相違ナキニ付此ノ際總理ヲシテ今後共日「タイ」協力ノ爲現在ノ位置ニ留ラシメ經歷人物共申分ナキ總理ノ信任スル人物ヲ代理トシテ渡日セシムルコトヲ認メラレテハ如何ト述ヘ更ニ同外相ハ會議ニ列席ノ他ノ諸國ハ日本ノ援助ニ依リ建設セラレ或ハ獨立ヲ得タル國々ナルニ反シ「タイ」ハ古ヨリ獨立ヲ有シ戰爭ト同時ニ日本ト同盟シ共同作戰ニモ共ニ努力シ居ル國ナルヲ以テ他ノ列國トハ自ラ立場ヲ異ニシテ居ルモノナルカ日本ハ是ニ對シ他ノ國ト異ナル如何ナル待遇ノ用意アリヤト質問シタルヲ以テ帝國大使ヨリ「タイ」ノ歷史的立場ナリ或ハ日本トノ特殊ノ關係等ニ付テハ日本ハ充分考慮ヲ加フヘク「ピブン」總理カ東條總理ヘノ答禮者トシテノ地位ニ對シテハ凡ユル方法ヲ以テ敬意ヲ表明スルニ努ムヘキモ會議其ノモノノ場合ニハ出席國ノ席次ハ日本語國名ニヨルイロハ順ヲ以テ定ムルコトナリ居リ「タイ」國ハ第二順位ニ立ツ旨應酬シタル趣ナリマサリシコトハ明ニシテ東條首相訪問ニ對スル答禮ノ

意味ニ於テモ來朝ノ意思ヲ明白ナラシメ斯同總理ノ本會議出席ハ危フマレ居リタル處案ノ如ク「ピブン」ハ健康上ノ理由ノ下ニ相當鞏固ナル意思ヲ以テ本會議出席方ヲ回避スルノ態度ヲ闡明ナラシメタリ右「ピブン」ノ心境ニ對スル理由トシテ在「タイ」帝國大使ノ判斷スル所ニ依レハ「ピブン」總理ハ健康上ノ理由ヲ以テ渡日不可能ノ所以ヲ固執シ居ルモ帝國大使會見直前離別挨拶ノ爲總理ニ面會セル石井參事官ニ對シ「ピ」ハ極メテ明朗ノ態度ニシテ最近盤谷ノ好季節ニ向フルニ連レ健康狀態良好ニシテ毎日「テニス」ニ興シ居レリト語リタル程ニシテ彼ノ健康上云々ハ渡日不可能ノ眞ノ理由ニ非ス察スルニ左ノ理由ニ依リ滋リ居ルモノト思ハルル趣ナリ

- (イ) 最近戰況樞軸側ニ不利ナルコト又是ニ乘スル敵側ノ對「タイ」宣傳ノ謀略ニ一般「タイ」人同様左右サルル處甚タ大ナルコト
- (ロ) 「ビルマ」ニ對スル敵側反攻迫リ來リ盤谷ノ大規模空襲ニ脅へ居ルコト
- (ハ) 上記ノ事由ニ基キ「ピブン」カ海外ニ出ル如キ場合

政敵ノ「クーデター」的陰謀ヲ極度ニ惧レ居ルコト

(二)日本ノ強要ニ屈シテ渡日ストノ宣傳及反樞軸側ノ非難ノ爲自己ノ政治的立場カ不利ニ陷ランコトヲ惧レ

居ルコト

(三)「ピブン」自身ハ勿論其ノ夫人モ極端ニ身邊ノ不安ヲ感シ又双方共飛行機嫌ヒナルコト

(四)「タイ」カ他ノ諸國ニ比シ日本ト特殊ノ關係ヲ有スル立場上他ノ出席國ト同様ニ取扱ハルルコトハ「タイ」國ノ面子上忍ヒ得スト考ヘラレルコト

(三)上記ノ理由ハ兎モ角「ピブン」ノ本會議ニ出席セサル意思力極メテ鞏固ナルコトハ「ウイチット」外相カ絕對極祕ニ願度シトシテ帝國大使ニ對シ内話セル如ク七日午後「ピブン」ハ臨時祕密會議ヲ開キ其ノ席上ニ於

(イ)「ピブン」首相カ本件會議ニ出席スルコトハ固ヨリ我方ニ於テハ今猶最モ希望スル所ナルカ病氣ノ爲出席不可能ナリト言フ以上已ムヲ得サルヲ以テ代理者ノ派遣ヲ認ムルコト

(ロ)本件會議ノ重要性ニ鑑ミ代理者ハ名實共ニ「タイ」ヲ代表スルニ足ル貫禄アル大物タルヘキコト

(ハ)右代理者ハ專ラ本件會議ニ出席スルカ爲來朝スルモノニシテ東條總理ノ訪「タイ」ニ對スル答禮ノ意味本カ武力ヲ以テ壓迫スルト思フヤト反駁シ「ウイチット」カ之ニ答ヘテ日本ハ必シモ武力ヲ用ヒストモ他

(五)「ピブン」總理ノ代理人タル人物ニ付テハ其後在「タ

ニ凡ユル手段ヲ有ス何ハトモアレ渡日スルヤ否ヤヲ決心スヘキナリト更ニ主張セルニ對シ「ピ」ハ自分ハ行カサルヘシト確言シ閣議ヲ終リタル經緯アリ

(四)在「タイ」帝國大使ニ於テハ中村司令官ト共ニ八日午後更ニ「ピブン」ヲ往訪約二時間ニ亘リ八方說得ニ努メタルモ「ピブン」ノ意思ヲ變更セシムルコト能ハス

結局帝國政府トシテハ善後措置ヲ決定スル必要ニ迫ラレタルヲ以テ本件ニ關スル方針ヲ左ノ通り決定シ「タイ」側ト折衝スヘキ旨帝國大使ニ訓令セリ

(イ)「ピブン」總理ノ代理者ハ名實共ニ「タイ」ヲ代表スルニ足ル貫禄アル大物タルヘキコト

(ハ)右代理者ハ專ラ本件會議ニ出席スルカ爲來朝スルモノニシテ東條總理ノ訪「タイ」ニ對スル答禮ノ意味本カ武力ヲ以テ壓迫スルト思フヤト反駁シ「ウイチット」カ之ニ答ヘテ日本ハ必シモ武力ヲ用ヒストモ他

イ」帝國大使ニ於テ「タイ」側ト累次折衝ヲ重ネタル結果「タイ」側ヨリ「ワンワイ」殿下ヲ派遣シ度キ旨

提案ニ接シ結局同人ヲ「ピブン」ノ代理トシテ出席セシムルコトニ意見ノ一致ヲ見タル次第ナルカ唯「ワンワイ」ハ皇族ナル關係上「タイ」國ノ憲法ニ基キ閣僚タリ得サル缺點アリ右憲法上ノ支障ヲ除去スルニ非サ

レハ總理ノ代理トシテ之ヲ認ムルコト困難ナルヤニ認

メラレタルヲ以テ此ノ點「タイ」側ニ確メシメタル處「ウイチット」外相ハ「タイ」國憲法上皇族ノ政治的地位就任不能ノ原則ヲ定メアルハ單ニ内政上ノ關係ニ止ルモノニシテ外國ニ對シ國家乃至政府ヲ代表スルコトニハ何等差支ナカルヘシ仍テ今回ハ同殿下ヲ總理代理トシテ派遣シ度キ意向ナリト述ヘタルヲ以テ「タイ」側ニ對シ「ワンワイ」カ「ピブン」ノ名代トシテノ地位ヲ有シ其ノ行爲ハ凡テ「ピブン」ニ於テ責任ヲ負フモノナル旨ヲ確認セシメタル上遂ニ「ワンワイ」ヲ「タイ」國代表トシテ出席セシムルコトニ落着セリ

(3) 滿洲國  
滿洲國政府ニ於テハ在滿帝國大使ノ申入レニ對シ十月八

日國務總理ノ會議參加方快諾セリ

#### (4) 「フイリピン」國

「フイリピン」ハ十月十四日獨立ヲ宣言シタルヲ以テ帝國ハ即日之ヲ承認スルト共ニ豫テ連絡シ置キタル通り在比帝國大使ヲシテ十月十五日前記訓令ヲ執行セシメタル處直ニ贊意ヲ表セリ

#### (5) 「ビルマ」國

十月八日在蘭貢帝國大使ハ「バー、モウ」總理ヲ往訪シ帝國政府訓令ノ趣旨ニ基大東亞會議開催ニ關スル我方ノ内意ヲ通達シ會議參加ニ關スル内意ヲ求メタルニ同總理ハ即座ニ欣然本會議ニ參加スヘキ旨回答セリ唯席次ニ付テハ國名ニ依ル「イロハ」順トナリ居ル處「ビルマ」カ獨立直後ノ「フイリピン」ノ後トナルハ「ビルマ」國トシテモ又自分ノ立場トシテモ面白カラサルニ付日本力承認ヲ與ヘタル順序ニ依ルコトトスルコト出來マシキヤト述ヘ席次ノ變更方ニ付縷々苦衷ヲ述ヘタリ之ニ對シ帝國大使ヨリ本件ハ關係各國ニ對シテモ既ニ申入レラレ居リ今更變更スルコト不可能ト認メラルモ御意見ノ次第ハ一應帝國政府ニ取次クコトトスヘシト應酬シ置キタル

編　注　各国への正式招請状は昭和十八年十月十五日に各国外

務大臣宛に発出された。

（略）

昭和十八年10月23日　大本營政府連絡會議了解

「大東亞共同宣言」

付記一　昭和十八年八月二十日

戦争目的研究会第一回幹事会議事録

二　昭和十八年八月二十五日付、戦争目的研究会

幹事会作成

「大東亞宣言經濟原則」

三　昭和十八年八月二十五日付、戦争目的研究会

幹事会作成

「大東亞共榮圈ノ政治体制」

四　昭和十八年九月一日

戦争目的研究会第二回会合議事録

五　昭和十八年十月四日付、外務省作成

「大東亞共同宣言」及び「大東亞會議決議」に関する外務省案説明

六　昭和十八年十月十八日付、重光外相作成

「大東亞共同宣言案」

七　昭和十八年十月二十一日、大本營政府連絡会議了解案

「大東亞共同宣言案」

八　昭和十八年十一月、大東亞省総務局総務課作成、「大東亞會議開催ニ關スル経緯概要（執務

報告）」より抜粋

大東亞會議招請及び大東亞共同宣言案に対する参加国の意向について

●  
大東亞共同宣言

抑モ世界各國カ各々其ノ所ヲ得相倚リ相扶ケテ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ世界平和確立ノ根本要義ナリ

然ルニ米英ハ自國ノ繁榮ノ爲ニハ他國家他民族ヲ抑壓シ特ニ大東亞ニ對シテハ飽クナキ侵略搾取ヲ行ヒ大東亞隸屬化ノ野望ヲ逞シウシ遂ニハ大東亞ノ安定ヲ根底ヨリ覆サントセリ大東亞戰爭ノ原因茲ニ存ス

大東亞各國ハ相提携シテ大東亞戰爭ヲ完遂シ大東亞ヲ米英

### 戦争目的研究會

ノ桎梏ヨリ解放シテ其ノ自存自衛ヲ全フシ左ノ綱領ニ基キ

大東亞ヲ建設シ、以テ世界平和ノ確立ニ寄與センコトヲ期

ス

一、大東亞各國ハ協同シテ大東亞ノ安定ヲ確保シ道義ニ基ク

共存共榮ノ秩序ヲ建設ス

一、大東亞各國ハ相互ニ自主獨立ヲ尊重シ互助敦睦ノ實ヲ舉

ケ大東亞ノ親和ヲ確立ス

一、大東亞各國ハ相互ニ其ノ傳統ヲ尊重シ各民族ノ創造性ヲ

伸暢シ大東亞ノ文化ヲ昂揚ス

一、大東亞各國ハ互惠ノ下緊密ニ提携シ其ノ經濟發展ヲ圖リ

大東亞ノ繁榮ヲ増進ス

一、大東亞各國ハ萬邦トノ交誼ヲ篤クシ人種的差別ヲ撤廢シ

普ク文化ヲ交流シ進ンテ資源ヲ開放シ以テ世界ノ進運ニ

貢獻ス

大東亞宣言ハ一面大東亞ノ結集ニ役立ツモノタルト共ニ他

方大東亞圈内各國並ニ世界ニ對シ「アピール」スルモノタ

ラザルベカラズ。從テ從來ノ指導國理念ノ極度ニ強調セラ

レタル共榮圈思想ハ反省ヲ要すべく同時ニ大東亞ノ政治的構成及經濟廣域圈等ノ問題ニ關シ國內的考慮モ忘ルベカラ

(昭和十八年八月二十日條約局長室)

### 第一回幹事會議事錄

出席者 安東條約局長、門脇政務一課長、曾爾政務一課

長、尾形調査二課長、原通商一課長、松平條約

二課長

劈頭安東幹事長ヨリ戰爭目的研究會設置ノ趣旨ニ付説明アリ。又其ノ運用ニ關シテハ今後幹事會ニ於テ主トシテ事務ノ進行ヲ計ルコトトスベク本日ハ差當リ最モ急ヲ要スル

「大東亞宣言」案ニ付研究致シ度シトテ参考トシテ國際法學會特別問題委員會案(別紙甲)及同幹事長ガ同委員會ニ提出セル案ニ一、二修正ヲ加ヘタル私案(別紙乙並ニ丙)ヲ各

幹事ニ配布セリ。

曾爾幹事

大東亞宣言ハ一面大東亞ノ結集ニ役立ツモノタルト共ニ他

方大東亞圈内各國並ニ世界ニ對シ「アピール」スルモノタ

ラザルベカラズ。從テ從來ノ指導國理念ノ極度ニ強調セラ

レタル共榮圈思想ハ反省ヲ要すべく同時ニ大東亞ノ政治的構成及經濟廣域圈等ノ問題ニ關シ國內的考慮モ忘ルベカラ

昭和十八年十一月 日

各國代表者名(略)

ズ。此ノ調和ニ最モ困難ヲ存スル次第ナリ。

安東幹事長

大東亞圈内諸國ハ勿論全世界ニ對シ我方主張ガ道理アルモ

ノト思ハシムルガ如キモノタルヲ要スベシ。他方我國大衆

ガ今日迄ニ培ハレタル共榮圈思想ヨリシテ余リニモ調子低シト云フガ如キモノニテモ戰意ノ昂揚ニ資セザル譯ナリ。

然レドモ二者ノ中何レガ重要ナリヤト云ヘバ勿論對外的宣傳ガ主ナリ。

尾形幹事

根本ノ建前ハ大東亞ノ解放ト云フコトナルモ右ハ畢竟一ノ過程ニシテ終局ハ世界協力ニ行クベキモノナリ。故ニ建前トシテハ勿論大東亞ノ建設ナルモ右ハ封鎖、獨占的ナルモノニ非ザル旨ヲ強調スル要アリ。殊ニ大東亞會議ハ一般ニ封鎖獨占ノ爲ノ會議ナルガ如キ印象ヲ與ヘ易キガ故ニ其ノ際斯ル宣言ヲ行ヘバ一層效果的ナリ。

安東幹事長

其ノ際最モ困難ナルハ經濟問題ナルガ通商局ニ於テハ極力本問題ニ關スル研究ヲ進メラレ度。

曾禰幹事

方法論トシテハ大東亞宣言ヲ作ル前ニ大東亞ノ構成ヲ考究スルノ要アリ。右ノ基礎概念確立セザル時ハ大東亞宣言ニ關スル論争ハ常ニ根本論ノ蒸シ返シトナル虞アリ。

尾形幹事

對外宣傳用トシテ大東亞ノ根本機構ヲ如何ニスルカガ結局「キイ、ポイント」ナランモ其ノ際「大東亞」ト云フハ甚ダ「エクスクルーシヴ」ニシテ大東亞ノ結集ガ主目的ト見ラルル危險アリ。

安東幹事長

然シ結集モ亦主要ナル目的ニシテ一ノ宣言ヲ以テ大東亞圈内ノ外國モ圈外ノ外國モ共ニ導カントスル所ニ苦心アル譯ナリ。尙其ノ際結集トハ精神的ニ自發的協力ノ氣持ヲ起セルコトナリト思考ス。

松平幹事

大東亞宣言ト云フ問題ニ關シ根本的ニ疑問ヲ有ス。米英ノ大西洋憲章ハ戰後ノ目的戰後ノ處理ヲ規定スルモノナルガ大東亞ノモノハ戰力增强ニ直接役立ツモノタラザルベカラズ。大東亞ノ結集ト云フモ結局ハ勝利ノ爲ノ結集ナリ。其ノ意味ニ於テ日本ガ大西洋憲章式ノモノヲ其ノ宣言ニ取り

入レ得ルヤ疑問ナリ。

原、門脇、曾禰各幹事ヨリ大東亞ノ結集ハ單ニ戰力増強ノ

問題ニ關係アルノミナラズ同時ニ戰後ノ經營ニモ關係アリ。大東亞宣言ハ戰爭手段タルト同時ニ戰後經營ノ方策タラザルベカラズト論ズ。

松平幹事

大西洋憲章ハ政略的要素強キ處大東亞宣言ハ謀略的ナルモノニ非ズシテ遙ニ具体的ナルモノヲ對象トシ居リ。

即チ大東亞ニ現存スル民族ノ結集ヲ目的トスルモノニシテ

大西洋憲章式ノ考ヘニテ之ヲ作ル時ハ後々動キノ取レヌコトトナル心配アリ若シ此等具体的問題ニ對シ良イ加減ノコトヲ云フナラバ寧口言ハザル方ガ可ナリ。又大東亞ノ建設ト云フコト以外ニ日本ガ世界ニ對シ創造的ナルモノヲ有スルヤ否ヤハ甚ダ疑問ナリ。

尾形幹事

大東亞宣言ノ狙ヒハ寧口大東亞ニ於テ日本ノ行フ事ハ良キ事ナリトノ印象ヲ米英ニ持タシメ結局米英ヲシテ我方ニ同調セシムル所ニアルベシ。又日本ノ政策ハ世界ニ對シ何等「クリエーティヴ」ノモノナシト云ハルルモ大東亞宣言ハ

世界平和建設案ニシテ最モ「クリエーティヴ」ノモノナリ。

松平幹事

米英ヲシテ大東亞ニ於ケル日本ノ行動ヲ諒解セシムルハ困難ナリ。米英ハ日本ノ爲ス事ヲ悉ク不正ナリト認メ居リ、今回日本ガ大東亞宣言ニ於テ多少氣ノ利イタ事ヲ言フモ米英ヲ反省サセルト云フガ如キ效果ナカルベシ。

日本ノ企圖スルハ道義ニ基ク大東亞ノ建設ニシテ何處迄モ大東亞ヲ中心トスルモノナリ。

曾禰幹事

大東亞ノ「ローカル」ナ平和ヨリ世界ノ平和ニ至ルヲ米英モ惡シトハ言ハズ。彼等ハ日本ノ對支政策ガ權力的封鎖的方法ナルコトヲ非難スルモノナリ。又大東亞ノ集結ニ付テモ或ハ權力的ナル方法アランモ之レニテハ大東亞諸國スマモ結集不可能ナリ、故ニ大東亞結集ノ方法論如何ハ大東亞諸國ニ對シテモ敵國ニ對シテモ重要ナル意義ヲ有スルモノニシテ大東亞諸國カ眞ニ悅服スル如キモノタラシムレバ敵米英亦假リニ承服セズトスルモ有效ナル非難及謀略宣傳ヲ行ヒ得ザルベク之カ狙ヒ所ニ非ズヤ。

松平幹事

日米交渉ノ經緯ニ鑑ミルモ米國側ハ四原則ノ主張ヲ捨テザ

ルベシ。

門脇幹事

我方ノ思想ヲ以テ敵陣營ノ思想ヲ切り崩スコトハ不可能ナリ。結局ハ現實ノ政策ガ物ヲ言フナリ。然シ其ノ現實ノ政策ニ「スローガン」ヲ必要トスペク右ガ大東亞ノ宣言ナリ。

安東幹事長

各幹事ノ御意見ニ依リ大東亞宣言ヲ作ルニ當リ各種ノ困難ノ存スルコト明瞭トナリタリ。然レドモ兎ニ角宣言ヲ作ル

コトヲ前提トシテ先づ日本ヲ中心トスル大東亞ノ政治的構

成ヲ研究致度。

一言ニシテ言ヘバ形式的ニハ圈内諸國ノ平等實質的ニハ日本ノ指導ト云フコトナラン。

曾禰幹事

其ノ問題ニ關聯シ陸軍等ノ大東亞聯盟思想ニ對スル反対モ之ヲ絕對ニ惡シトスルモノニ非ズ。一ハ時機ノ問題トシテ戰爭遂行中ノ今日ハ困ルト云フコトニハ法的根據ニ基ク指導國家乃至日本ノ主權ニ對スル制限等(例ヘバ大東亞聯盟思想ノ如キ)ヲ忌避シタルモノナリ。

門脇幹事

全然圈内諸國相互間ノ關係設定ニ反対ニ非ズ。點線位デ結

安東幹事長

法的根據ニ基ク指導國家ト云フ觀念ハ此際之ヲ避ケザルベカラズ又日本ノ主權ヲ制限スルガ如キコトモ有ルベカラズ。即チ大東亞ニ於ケル主權ノ結合ハ自由意思ニ依ルベキモノナリ。故ニ大東亞ニ於テハ飽迄平等自主獨立ガ其ノ政治原則ナリ。然モ自主獨立ノ諸國家ハ恣意ニ依リ行動スルコトナク協同スベキモノナリ。其ノ間ノ關係ヲ表現スルモノトシテ汎米主義ノ善隣思想ハヤヤ之ニ近ク善隣協力トデモ言フベキカ。

原幹事

大東亞諸國ノ「グループ」ニハ其處ニ何等カノ家族的ノモノアルベシ。

曾禰幹事

軍方面ニハ大東亞共榮圈諸國ト大東亞ノ軸心タル日本ノ關係ハ別トシ圓周上ノ諸國間ノ關係ハ強化シタクナイト云フ意嚮アリ。日本ニ對シ戰爭遂行ノ爲協力中ノ其等諸國ガ相互ニ結托スルヲ虞ルモノナリ。

門脇幹事

ビ附ケ度シト云フ軍側ノ意図ナリ。

曾禰幹事

又日満、日支、日泰等々日本ト圈内各國トノ關係ニハ夫々特殊性アリ。各國ハ一律平等ニ非ズ之ヲ大東亞聯盟思想ヲ以テ一律ニ規定スルコトハ間違ヒナリトノ意見モアリ、又

大東亞會議ハ結局井戸端會議式ノモノトナリ日本ノ威令行ハレザルコトヲ心配スル向アリ。

安東幹事長

蓋シ一理アリ。之ヲ避クルニハ大東亞會議ノ運用、竝ニ協議内容ニ付注意ヲ要ス。蓋シ同會議ノ權限ヲ廣汎ニシ政治經濟ノ根本問題ヲ決スル機關タラシメバ其ノ心配ハ實現スベシ。結局日本ノ現實的指導ニ支障ナキ様會議ヲ進ムル要アリ又日本ト各國トノ間ノ個別的關係ハ日本ト其ノ國ノ直接關係ニ於テ調整スベキモノナリ。

原幹事

大東亞ノ構成ヲ經濟的ニ概念スル場合貿易、決済、資源ノ開發等何レノ經濟問題モ結局政治問題ニ突キ當ルコトトナルベシ。

安東幹事長

政治面ニ於ケル日本ノ現實ノ指導ト云フ事ヲ經濟的分野ニ於テハ如何ナル語ヲ以テ表現スベキヤ。

尾形幹事

「申合セニ基ク協同計劃ニ從ヒ」トスルヨリ他ニ途ナカルベシ。

安東幹事長

重光大臣ハ互恵協力ト表現セラル。果シテ之ニテ充分意ヲ盡クスモノナリヤ御考へ置キ相成度。協力ト云フ所ニ指導ヲ含マセ居ルモノナリ。

尙大東亞宣言ニハ大東亞資源ノ開放ハ大キク唱フル要アリ。  
曾禰幹事

戰後圈内ノミノ完全ナル「アウタルキイ」ト云フコトハ不可ナル旨周知セシメルコト必要ナリ。過剩資源ハ交易スルコトトセザレバ日本ハ別トシ圈内諸國ハ追隨協力シ來タラザルベシ。

原幹事

最近國防國家ト云フコトガ喧傳セラルモ戰後ニ於テハ民生ガ主ナルコトヲ言フ必要アリ。

安東幹事長

右ニ關聯シテ大東亞ノ根本機構トシテ共同防衛ヲ強調スル要アリ。

原幹事

然シ其レヲ余リ強調スル時ハ戰後ノ民生問題ト抵觸スベシ。松平幹事

大西洋憲章ハ本問題ヲ軍備ノ縮少トシテ取上げ居レリ。

門脇幹事

米英ノ出方ニヨリ我方ノ態度ニ柔軟性アルヲ匂ハス必要アリ。

安東幹事長

次回迄ニ大東亞ノ經濟的基本要綱ヲ通商一課長ニ於テ政治的構成ヲ政務二課長ニ於テ纏メラレ度シ次回ハ八月二十四日トス。

別紙甲

大東亞宣言案

昭和十八年七月二十三日 國際法學會特別問題委員會

大東亞諸國ハ萬邦各其ノ所ヲ得兆民悉ク其ノ堵ニ安ンズルヲ以テ恒久平和ノ根本義ナリト認メ

之ガ爲米英兩國多年ノ桎梏ヨリ「アジア」ヲ解放シ大東亞諸民族ノ自主的發展ト共存共榮ノ實ヲ舉グベキ道義ニ基ク新秩序ヲ建設維持スルコトニ決シ

更ニ世界到ル所ニ於テ志ヲ同ウスル諸國ト協力シテ世界ニ

於ケル平和ノ維持及人類福祉ノ増進ニ貢獻センコトヲ期シタルニ依リ

茲ニ大東亞新秩序ノ綱領ニ付隔意ナキ意見交換ノ結果完全ナル合意ニ達シ左ノ通り宣言ス

一、大東亞諸國ハ大東亞諸民族ヲ永久ニ解放シ其ノ自主的向上發展ヲ促進スペキ道義ニ基ク新秩序ヲ建設維持スルコトニ協力スベシ

二、大東亞諸國ハ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲相互ニ其ノ自主獨立及領土ヲ尊重スベシ

三、大東亞諸國ハ大東亞全體ノ安全ト共通利益ヲ確保スル爲共同連帶シテ相協力スベシ

四、大東亞諸國ハ其ノ一國ニ對スル大東亞外ヨリノ一切ノ壓迫又ハ脅威ハ大東亞諸國全部ニ對スル壓迫又ハ脅威ナルコトヲ認メ各々其ノ分ニ應ジ其ノ力ヲ竭シ相依リ相扶ケテ共同防衛ノ責務ヲ全フスベシ

五、大東亞諸國ハ大東亞各地方ノ特長ヲ助長シ長短相補シ有無相通ジ一體トシテノ緊密ナル經濟提携ヲ行ヒ以テ大東

亞全民衆ノ生活ノ安定及福祉ヲ確保増進スベシ

六、大東亞諸國ハ大東亞地域ニ於ケル資源ノ開發及利用ニ付テハ衡平ノ原則ノ下ニ世界ニ之ヲ開放シ又世界各國トノ間ニ通商上互惠協力關係ヲ設定シテ世界經濟ノ發達ト繁榮トニ貢獻セントス

七、大東亞諸國ハ大東亞文化ノ本然ノ特質ヲ尊重シテ緊密ナ

ル協力ノ下ニ文化ノ融合創造及發展ニ努メ以テ大東亞文化ノ昂揚ヲ計リ進ンテ世界文(二字不明)ノ進展ニ寄與スルトコロアラントス

八、大東亞諸國ハ志ヲ同ウスル世界各國ト相協力シテ夫々其ノ屬スル地域ニ於テ正義ト公正トニ基ク新秩序ヲ樹立シテ不脅威不侵略ノ原則ヲ尊重シ和平戮力ノ手段ニ依リ國際關係ヲ處理シ以テ世界ノ平和維持及福祉増進ニ貢獻センコトヲ期ス

註

六、ニ關シテハ其ノ根本原則即チ資源ノ開放通商上ノ互惠關係設定ニ付各委員間ニ意見ノ一致ヲ見ザリシモ参考ノ

爲其ノ儘採錄セリ

## 別紙乙

大東亞憲章ノ骨子(私案)安東委員

### 大東亞建設ノ理想

大東亞ノ解放—道義ニ基ク共存共榮圈ノ建設ニ依リ世界

平和ノ再建確立ニ寄與

### 大東亞建設ノ綱領

一、大東亞各國ノ自主獨立ノ尊重ト協力ノ緊密化

二、大東亞各民族ノ自主的發展トノ融和

### 三、大東亞各國ノ同盟

#### 大東亞共同防衛

大東亞經濟協力—大東亞各民族文化ノ福祉ノ確保増進

大東亞經濟總力ノ充實

大東亞文化ノ興隆—各國各民族文化ノ交流ト大東亞文化ノ創造發展

(註一)日本ノ指導ハ事實上ニ行ハルルモノトシテ大憲

章ハ各國平等互惠ノ形式ヲ執ル

(註二)言辭ハ平明ヲ主トシカメテ主觀的高踏的難解ナ

別紙内

大東亞又ハ太平洋憲草案

安東委員私案

大東亞各國各住民ノ安定ト繁榮ヲ確保シ眞正ナル世界平和  
ト人類福祉ノ増進ニ寄與センカ爲大東亞各國政府ハ大東亞  
秩序ノ綱領ニ付隔意無キ意見ヲ交換シタル後完全ナル合意  
ニ達シ左ノ通宣言ス

一、大東亞各國ハ「アジア」外ノ他國ノ干渉、支配、獨占又  
ハ搾取ヨリ大東亞ヲ永久ニ解放シ其ノ向上發展ヲ阻害ス  
ベキ有ユル障害ヲ克服センコトヲ期ス

二、大東亞各國ハ大東亞全民衆ノ生存ト向上發展ヲ確保スル  
爲相互ニ自主獨立及領土ヲ尊重シ平等互惠ノ原則ノ下ニ  
善隣協力ノ關係ヲ確立セんコトヲ期ス

三、大東亞各國ハ大東亞ニ對スル外部ヨリノ政治的介入ヲ斥  
ケ其ノ壓迫又ハ脅威ヲ以テ各國共通ノ壓迫又ハ脅威ナル  
コトヲ認メ相依リ相扶ケテ共同防衛ノ責務ヲ全ウセンコ  
トヲ期ス

四、大東亞各國ハ大東亞全民衆ノ生活ノ安定及福祉ヲ確保增

進スベキ共存共榮ノ經濟關係ヲ確立シ通商上ノ互惠協力  
關係ヲ設定スルト共ニ、互惠協力ノ原則ノ下ニ資源ノ開  
發及利用ヲ世界ニ開放シ世界經濟ノ發達ト世界平和ノ維  
持ニ寄與センコトヲ期ス

五、大東亞各國ハ大東亞ガ古來深遠ナル文化ヲ有シ人類文化  
ノ發達ニ寄與セル處大ナルヲ思ヒ大東亞諸民族ノ傳統的  
文化ヲ培ヒ一層文化ノ交流融合及發展ヲ計リ大東亞文化  
ヲ隆盛ニシテ人類ノ向上福祉ニ寄與センコトヲ期ス

六、大東亞各國ハ世界各國ガ夫レ夫レ其ノ屬スル地域ニ正義  
ト公正ニ基ク共通ノ秩序ヲ樹立シ暴力ニ依ル制覇ヲ排シ  
各國間及他地域ニ對シ不脅威不侵略ノ軍備ヲ持シテ世界  
平和ノ維持ニ協力シ一切ノ國際紛爭ヲ平和的ニ處理ゼン  
コトヲ望ム

編注 本文書付記一から付記七は、「極東國際軍事裁判關係  
文書」より採録。

(付記二)

一八、八、二五 戰爭目的研究會幹事會案

## 大東亞宣言經濟原則

セス

### 一、經濟的ニ安定アル國家又ハ國家群ノ形成

今次戦争ハ英米蘭ノ經濟壓迫ニ對抗シ自存自衛ノ爲ノ

モノナリ

世界ノ平和ハ經濟的ニ安定アル國家又ハ國家群ヲ形成  
單位トセサル限り所期シ難シ

近代經濟生活ノ發達ト複雜化、近代戰爭ノ消耗性ト多

様性、合衆國、「ソ」聯ノ二大國家ノ間ニ介在スル事實等ハ東亞諸國家カ一經濟單位ヲ結成スルヲ餘儀ナク

セシム

圈内各國ハ獨立、平等、互助ノ大原則ニ基キ安定アル  
國家群ノ結成ニ一致協力ス

東亞諸國家ハ經濟的安定感ノ許ス限リ圈内資源ヲ獨占  
スルノ意思ヲ有セス

### 二、搾取無キ世界ノ實現

今次戦争ハ東亞民族ヲ搾取ヨリ解放スル爲ノ戰ナリ

英米蘭カ東亞民族ノ搾取ニヨリ太リ且其ノ狀態ヲ維持  
セントセルコトカ今次戦争ノ根本原因ナリ

東亞諸國家ハ他國家又ハ他民族ヲ搾取スルノ意思ヲ有

### 三、生活水準ノ向上

東亞民族ノ生活水準ハ不當ニ低位ニアリ

東亞民族ノ生活水準ヲ引揚ケ各國各民族ヲシテ各々其  
ノ分ニ應シタル生活ニ安ンセンマルコト今次戦争目的  
ノ一タリ

### 四、世界永遠ノ平和ノ招來

前記三條件ヲ達成スルコトニヨリ永遠ノ平和カ保障セ  
ラル世界ヲ作り上クルコトカ東亞諸國家ノ戰争目的  
タリ

前記一乃至三ノ條件ハ現實ノ事實ノ形ニ於テ満足セラ  
レサルヘカラス、斯ル本質的條件ニ付テノ國際法又ハ  
條約ノ保障ハ意味ヲナサス

斯ル世界ニ於テハ經濟ノ各分野ニ於テ自由ト平等ト互  
惠ノ原則カ其ノ眞ノ意味ニ於テ適用セラルヘク資源ノ  
開放、貿易ノ自由、條約ノ神聖等ノ標語モ始メテ空念  
佛タラサルヘシ

(付記三)

## 大東亞共榮圏ノ政治体制

トアリ

### 十八、八、二十五、戦争目的研究會幹事會案

(二)各國ノ地位及相互間ノ關係

#### 一、大東亞共榮圏ノ理念

大東亞共榮圏ノ理念ハ

(一)大東亞ニ於ケル各國カ

(A)相互ニ其ノ主權獨立及自主的發展ヲ尊重シツツ

(B)米英ノ政治的經濟的支配ヨリ脱却シ各自ノ政治上經

濟上ノ自律及安定ヲ確保セントスル共通ノ利益及責

任感ニ基キ相協力シテ共同ノ事業タル大東亞ノ平和

安定ノ維持、防衛及大東亞ノ興隆ニ向テ努力セント

スルモノナルト共ニ

(二)世界全般トノ關聯ニ於テハ右ノ如キ政治的經濟的平和

安定ヲ先ツ大東亞地域ニ確立セントスル現實的方法ニ

依リ志向ヲ同クスル共榮圏外諸國家ト協力シツツ世界

全局ニ類似ノ公正ナル平和ヲ招來セントスルモノナリ

#### 二、共榮圏ノ政治構成

(一)構成分子

大東亞ノ各獨立國トス、尤モ佛印等歐洲第三國ノ屬領

ニ付テハ差當リ事宜ニ應シ準構成分子ノ取扱ヲ爲スコ

ヲ避ケルモノトス

(A)各國ハ自主獨立ノ國家トシテ國際法ノ人格ニ於テ平

等ナリ

(B)自主獨立ハ相互ニ尊重スヘキモ共榮圏ヲ構成スル意

味ニ於テ前記ノ如キ共通ノ利益及責任感ニ基ク協同

行動ノ感念<sup>(觀念)</sup>ヲ抱持スルコトヲ前提トス

右二原則ノ下ニ於ケル各國政治關係ヲ例示スルニ左ノ如

シ

(イ)法律的平等ナルモ事實上ノ地位及實力ニ差異アルコト

ハ當然ナリ然レトモ此ノ點ハ法律的乃至ハ規約的ニ明

定セサルヲ可トス

(ロ)從テ指導國ナル觀念殊ニ右觀念ヲ法的乃至ハ規約的ニ

確定スルコトハ避ケルモノトス

(ハ)共榮圏ノ構造ハ日本ヲ軸心トシ各國ヲ放射線的ニ軸心

ニ向ケ結集セルモノニシテ軸心國以外ノ各國間ノ直接

連繫ハ稀薄ナラシムヘシトノ主張アルモ之亦事實上ノ

運用ニ俟ツコトシ法的乃至ハ規約的ニ明定スルコト

(二) 各國ハ獨立國家トシテ相互ニ使節ヲ交換シ外交ヲ行フ  
モノトス

(A) 共榮圏内ノ安寧靜謐ノ維持並外部ニ對スル防衛ニ付協定ニ基キ特定ノ義務ヲ負擔シ乃至ハ共同行動ニ出ツルコトヲ豫想ス

### 三、共榮圏ト外部トノ政治關係

共榮圏ト外部トノ政治關係ニ於テ特記スヘキ點左ノ通

(A) 共榮圏ハ政治的ニハ地理的ニ近接スル大東亞各國間ノ平和安定ノ機構ニシテ右ハ地域的部分の平和ヲ確保シ以テ世界平和安定ニ寄與セムトスル着實且現實的平和

機構ノ思想ノ表現ナルト共ニ(此ノ意味ニ於テ「モン

ロー」主義乃至ハ汎米思想ニ近ク國際聯盟思想トハ遠シ)鎖國的排外的挑戰的思想ニ出テタルモノニ非ス

(B) 共榮圏ト外部トノ政治關係ハ特ニ共榮圏各國間ノ規約等ニ於テ明定セラレタル事項(平和安定ノ維持、防衛並共同ノ經濟建設ニ關スル特定ノ事項ニ關シ先ツ共榮圏各國間ニ於テ協議ヲ要スルモノ)ヲ除キ共榮圏ナル團體ト外部トノ關係ヲ生スルコトナシ換言セハ共榮圏各國ト世界ノ如何ナル國ト雖モ國家間ニ於ケル通常ノ

外交關係ヲ維持ス唯前記特定事項ニ付テハ共榮圏内規約ニ反セサルコトヲ要スルニ止マル

又共榮圏トシテ外部ニ對シ行動ヲ爲ス方法トシテ共榮圏ノ代表若ハ代理機關ヲ設ケルコトナシ換言セハ指導國ナルモノカ圈内國ニ代リ外部ト交渉シ又ハ協定スル如キハ採ラサル所トス

(C) 右ノ結果トシテ共榮圏各國ハ何レモ自主的ニ外部各國ト外交使節ヲ交換シ且外交ヲ行フヲ妨ケス其ノ外交ヲ内容のニ制限スルモノハ自ラ規約ニ依リ制限スル範圍ニ止マル

### 共榮圏ノ構成ト大東亞會議トノ關係ニ付テ

(一) 前陳共榮圏ノ構想ハ之ヲ或ル程度成文化スルコトヲ便宜トスル處之カ方法トシテ考慮スヘキハ左ノ通

(イ) 日本對各國間條約ニ依リ個別的ニ軸心ニ向ケテ構成スル方法

(ロ) 多邊條約ニ依リ一舉ニ構成スル方法

(ハ) 政策ノ宣言ヲ行フ場合(共同宣言トナルカ一國ノ宣言ニ對シ他國カ贊意ヲ表明スルコトモアリ得ヘシ)

而シテ(イ)ノ方法ニ付テハ相當國內ニ異論アリ(ロ)ニ付テ  
ハ必スシモ適當ナラサルモノアル一方大東亞會議ノ開

催ヲ前提トスル場合ニ於テ最モ實際的方法ハ大東亞會議ノ結果トシテノ共同宣言ニアリト判斷セラル

(二)依テ大東亞會議ニ上提シ採擇セシムヘキ宣言案ニ於テ

共榮圈ノ構想ニ觸レ共榮圈各國ノ關係及共榮圈ト外部

トノ關係ニ關スル思想ヲ闡明スルコト可然

(三)次テ大東亞會議ノ立場ヨリ檢討スルニ左ノ如キ問題ア

リ

(A)宣言　宣言ノ內容ハ米英擊破ニ關スル決意ノ表明ト

大東亞建設ニ關スル政策ノ闡明トノ二ツノ要素ヨリ

成ル之ヲ單一ノ宣言ニ盛り込ムヤ否ヤノ研究

(B)議題　議題ニ付テハ事前協議スルヲ可トスルモ其ノ

際日本側ノ提案トシテ何ヲ出スヤ又各國側ノ發言提案等ヲ相當自由ニナシタル會議トスルヤ或ハ宣言案等ヲ中心トシ具體的成果ヲ期待スル會合トナスヤノ研究

(C)議事進行　前記(B)トモ關聯スルモ票決制度等ヲ設ケ

サルヲ可トスヘシ

(D)今後ノ會議ニ關スル事項　宣言ニモ關聯スル所ナル

カ大東亞會議ヲ定期若ハ隨時開催方ノ申合等並其ノ  
際ノ規約等ノ研究

#### (付記四)

戰爭目的研究會第二回會合議事錄

(九月二日午後三時ヨリ外務次官官邸)

出席者

松本次官、山川顧問、松田博士、來栖大使、石射

大使、政務局長、通商局長、條約局長、調查局長、

石澤總領事、法華津書記官、通商一課長、調查二  
課長、條約二課長

先ツ法華津書記官ヨリ曩ニ幹事會ニ於テ檢討ヲ遂ゲタル別紙「大東亞共榮圈ノ經濟体制」ニ付説明アリ。即チ右ハ前回幹事會案トシテ提出セラレタル「大東亞宣言經濟原則」ノ四原則ノ根底トナルベキ大東亞共榮圈ノ經濟的構想ニシテ其ノ理念ニ於テハ「大東亞共榮圈ノ政治体制」(前回幹事會案トシテ提出セラレタルモノ)ノソレヲ「スウ・ザンタルドル」シ、全体ヲ之ト「マツチ」セシムル様努メタルモノナル旨述べ、逐條説明ヲ加ヘタル後審議ニ入ル。

## 一、大東亞共榮圏ノ經濟的本質

松本次官

率直ニ云ヘバ此ノ經濟体制ト前回□セラレタル政治体制ノ間ニハ相當ノ開キアル様認メラル。即チ政治体制ニ於テ大東亞諸國ハ完全ナル自主、獨立ヲ一應認メラレ居ルニ反シ、此ノ經濟体制ニ於テ各國ハ從來共□□□經濟□□ニアルカ如キ制限セラレタル主權國ナリ。右ノ如キハ如何ニ解釋スルヤ。斯ノ如キ構想ヨリ前回提出セラレタルガ如キ經濟四原則ガ生マレタルモノトノ印象ハ受ケズ。

法華津書記官

形ノ上ニ於テハ自主、獨立ヲ尊重スルモ實質的ニハ之ヲ制限スルハ政治体制モ同様ニシテ兩者ノ間ニサシタル開キアルモノト思考セズ。抑々此ノ書キ物ノ取扱ヒ方ガ問題ナルガ之ヲ大東亞諸國其ノ他外部ニ發表スルハ不可ナランモ、我々ノ心ニ收メ置クモノトスレバ斯ノ如キ構想ハ當然ノコトニ非ズヤ。(一)、(二)ニ付テハ通商局ノ内部ニ於テモ議論アリタル所ナルガ右ハ大東亞ノ經濟体制ヲ考フル上ニ於テ逸スベカラザル點ナリト思考ス。

大東亞宣言ハ勿論對外的價值ヲ重要視スルモノナルガ、假令宣傳トハ云ヘ其處ニ自ラ「ツボ」アリ。言フベキコトハ言ハザルベカラズ。然レドモ「ノ共榮圏ガ必然的ナル結集体制ナリトカ自衛体制トカ云フコト又後ノ項ニアル重要國防資源、民生根幹物資等ノ觀念ハ其ノ解釋如何ニ依リ殊ニ其ノ意味ヲ擴張スル時ハ結局大東亞共榮圏ヲ内ニ於テハ壓迫シ外ニ對シテハ閉鎖的排他的ナラシムルモノニ非ズヤ。殊ニ外國ニ於テハ其ノ意味ニ取ラル虞ナキヤ。

松本次官

一ノ(三)、四、(五)、ノ點ハ結構ナルモ(一)、(二)ハ相當「アグレツシヴ」ナリ。大東亞共榮圏ハ運命協同體ニシテ從テ其ノ内部ニ於テハ必要ナル丈經濟統制ヲ行フモノナリト云ヘバ圏内諸國ハ恐慌ヲ來スベシ。固ヨリ理論トシテ右ハ強力且魅力アルモノニシテ我々モ昨年邊り迄ハ此ノ議論ニテ來タレルモノナリ。然レドモ現實ノ事態ヲ參照シテ共榮圏ノ理念ハ本案ノ程度迄引下ゲラレタルガ此處ニ於テハ更ニ現實ニ即應シテ之ヲ檢討セントスル次第ナリ。實際政治ノ部面ニ於テハ例ヘバ日華關係ノ如ク根本的變動、轉換ガ起リツツアリ。之ニ對シテ經濟的分野ニ於テモ、根本的反省ノ時

ニアルニ非ズヤ。

法華津書記官

大東亞共榮圏ノ成立ガ不可能ナリト斷定スルナラバイザ知ラズ若シ共榮圏ガ成立スル以上其ノ本質トシテ(一)、(二)ノコトハ當然舉ゲラルベキコトニ非ズヤ。戦争ニ勝タザレバ共榮圏ノ出來ザルコトハ明白ニシテ抑々戦争ニモ負ケズ然モ共榮圏ノ出來ザル状態ト云フモノガ有リ得ルヤ。只茲ニ共

榮圏ノ本質トシテ舉ゲラレタルモノガ外部ニ發表ノ都合上

惡シト云フナラバ書キ改ムルモ可ナリ。

松本次官

戦争ニ勝チテモ爲シ得ルコトノ限度ハアル可キナリ。

石射大使、政務局長

本案ガ内輪ノ含ミト言フナラバ之ニテ可ナラズヤ。

條約局長

本体制ハ軍側ニ對シ大東亞宣言ヲ説明スル基礎トナルベキ

モノニシテ内輪限リノ含ミタルベキモノニ非ズ。軍側其ノ他ヲモ納得セシムルモノタルヲ要ス。

通商局長

議論ノ點ハ通商局ニ於テモ問題トナリタル點ナルガ自分ト

シテハ例ヘバ大東亞カ必然的ナル結集体制ナリヤ否ヤト云フコトニ付テハ議論モアリ且實證シ得ルコトニモ非ズ。疑問ニ思ヒ居レリ。

山川顧問

餘リ高邁ノ理想ヲ云ヒテ現實ト背馳シ又國民ト遊離スルガ如キコトハ戒メザルベカラズ。陸海軍ヲモ納得セシメ得ルモノタラザルベカラズ。

法華津書記官

若シ本案ヲ外部ニ出スストレバ恐ラク逆ノ意味即チ一般ノ共榮圏ノ理念ヨリ區別スキルトテ各方面、殊ニ産業省方面ノ反對ニ遭フハ必至ナルベシ。

調査局長

理念的ニハ本案ハ經濟体制ト餘リ異ル所ナシ(以上松田博士同意見)從テ議論ノ點ハ政治体制ニ含マセ經濟体制ノ方ハ(一)(二)ヲ除キテハ如何。

通商局長

經濟的問題トシテモ今一應考慮ノ要アルベシ。

山川顧問

議論ノ點ヲ參酌シテ書キ方ヲ變ヘラレ度。

尙一、(五)共榮圏ト世界トノ關係ノ部分ハ政治体制案ノ引用ニ誤リアリタルニ付政治体制ニ從ヒ之ト同様ニ書キ改ムルコトトナレリ。

### 二、大東亞共榮圏ノ經濟的特徵

石射大使

(一)ノ大陸的國家、海洋國家トハ如何ナル意味ナリヤ

法華津書記官

大陸的國家ハ陸續キノ關係上其ノ陸ノ限度迄ハ發展ノ可能性アリ又其ノ範圍内ニ於テ交通ハ確保セラレ居リ海洋國家ハ舟運ノ便ニ依リ開發ニ便ナル特徵アリ。殊ニ内海ハ防衛容易ニシテ然モ舟運ハ至便從テ開發ヲ容易ナラシムモノナリ。大陸的性格ヲ有スル海洋國家群ハ開發ニモ便ナルト共ニ發展性モ大ナル次第ナリ。

來栖大使

四ノ労働單價亦低廉ナル特徵ヲ有スト云フハ削リテハ如何。

諸員之ニ贊成。

三、大東亞共榮圏ノ經濟政策ノ基調

(一)圈内經濟政策

松本次官

計畫經濟モ計畫ヲ日本ガ勝手ニ計畫ヲ立ツルニ於テハ圏内諸國ノ納得スル所タラザルベシ

山川顧問

表面ハ協力經濟トシ實質ハ計畫經濟ニシテハ如何

松本次官

日本ヲ除ク大東亞ノ諸國民ハ其ノ國民性ヨリシテ計畫經濟ヲ欲セズ大東亞ニ於テハ結局蘇聯邦式ノ計畫經濟ヲ實行スベカラザルニ依リ從來ノ計畫經濟ノ考へ方ヲ改メントスルモノナリ。南洋ニ於テハ計畫經濟或ハ可ナランモ支那ハ如何ニスベキヤ。目標の大綱的ト雖モ支那ヲ計畫ノ枠ニ入ルルハ困難ナラズヤ。

石射大使

右ハ結局力ノ問題ナリ

法華津書記官

大東亞ニ於テ計畫經濟ハ一切行ハズト言フナラバ問題ハ全然別ナリ

來栖大使ヨリ共榮圏ノ共榮ノ觀念餘リ明カナラザルヲ指摘

アリ

條約局長ヨリ統制經濟ヲ改メテ計畫經濟トセル幹事會ノ經

緯説明アリ

石澤總領事

農業、工業其ノ他夫々ノ分野ニ於テ距離、適地主義等ノ觀點ヨリ計畫經濟ハ自ラ必要ナリ

山川顧問

然シ其ノ意味ノコトハ「四ノ經濟的依存關係ト云フコトニテ表現セラルルモノニ非ズヤ。

條約局長

相倚リ相助ケ且調和ヲ保ツ意味ニ於テ計畫經濟ナリ。

石澤總領事

計畫經濟自体ガ惡シキニ非ズ。其ノ計畫ヲ日本ガ勝手ニ極メルコトガ惡キ結果ヲ來スモノナリ。

松本次官

今日迄ハ恰モ搾取ノ爲ノ經濟計畫ナルガ如キ感アリタリ。

山川顧問ヨリ三(一)ノ3、5ヲ削リテハ如何トノ提議アリ結局其ノ儘トスルコトナレリ。

次ニ圓ヲ仲介トル爲替制度ノ問題ニ付討議アリ。(一)ノ

原則論ノ際圓問題出テ石射大使ヨリ共榮圈ニ於テハ放置セバ自然圓ガ中心貨幣トナルヤノ質問ニ對シ法華津書記官然

リト答ヘ、來栖大使ヨリ「モーゲンサウ」モ「ドル」トハ云ハズ「ユニット」ナル語ヲ使用シ居ル點ニ付注意喚起アリタリ。)

松本次官

圓ノ問題ニ付テハ茲ニ議論ヲ避ケルモ現狀ニ於テハ圓ノ問題ハ結局日本ニ其ノ能力ナシト認メザルヲ得ズ。然シ本問題ハ共榮圈ノ成否ノ懸ル所ニシテ充分研究ノ要アリ。今日大藏省邊ニテ考へ居ル圓ノ「システム」ニテハ結局成功覺束ナシ。

石射大使

同感ナリ。結局力ノ問題ナリ。圓サヘアレバ何デモ買ヒ得ル狀態トナラバ圓ハ自然ト通貨ノ中心タルベシ。

(二)對圈外經濟政策

山川顧問

大東亞ハ成ル可ク自由ノ立場ニテ進ミ度シ。即チ交易モ出來得ル限り自由ニシ搾取ハ固ヨリ之ヲ排斥スルモ合法的正當ナル投資ハ之ヲ許容スルコトトスベク、斯ル狀態ニ於テ若シ日本ガ圈外諸國トノ競争ニ堪ヘ得ザルニ於テハ日本人ニ共榮圈ヲ營ム能力ナキモノト思考スベキナリ。

通商局長

大東亞ヲ出來得ル限り自由ニスルコトヲ否定スルモノニ非ズ。

來栖大使

圈外トノ貿易ヲ自由ニシ又資本ノ導入ヲ許容スルハ宣傳的見地ヨリ甚ダ結構ナリ。只今日迄ノ米英ノ投資ハ搾取ニシテ將來ノ合法的投資ハ許ストハ聊カ矛盾スル所ナキヤ。二ツノ投資ノ間ニ本質的差異ヲ存セズ。結局今日迄ノモノモ「レジチメート、ビジネス」ハ許スト云ハザル可カラズ。

左様ナル積極面ヲ今少シク本項ニ盛り込マレ度シ。

(別紙)

大東亞共榮圏ノ經濟体制

(一八、九、一 戰爭目的研究會幹事會)

一、大東亞共榮圏ノ經濟的本質

(一) 大東亞共榮圏トハ之ヲ世界經濟進歩ノ過程ヨリ見ルトキハ近代經濟生活ノ發達ト複雜化、殊ニ近代戰爭ノ消耗性ト多種性等ノ要求ヨリ來レル必然的ナル結集体制

ナリ

(二) 大東亞共榮圏トハ之ヲ發生的ニ見レバ英、米、蘭ノ經濟的壓迫ニ對抗シ及其ノ搾取ヨリ離脱セントスル大東亞諸國ノ自衛体制ナリ

(三) 大東亞共榮圏トハ之ヲ目的的ニ見レハ國家生活ノ安全感確保ヲ直接ノ共同目的トシ、延テハ世界全局ニ類似ノ態形ノ國家又ハ國家群ヲ構成スルコトニ依リ世界永遠ノ平和ヲ招來スルコトヲ終局ノ目標トスル大東亞諸國ノ協力体制ナリ

(四) 大東亞共榮圏トハ之ヲ構成的ニ見レハ共同目的ノ下ニ結集セル獨立經濟單位ノ集合体制ナリ、從ツテ共同目的ノ關スル限り圈外諸國トハ異レル特殊ノ經濟的依存關係ヲ有シ且其ノ範圍ニ於テ經濟活動ニ付必要ナル統制ト制約ヲ受クルモ右以外ノ分野ニ於テハ經濟的ニ自主獨立ノ建前ヲ維持スルモノナリ

(五) 大東亞共榮圏ノ世界的性格ハ閉鎖的乃至非協力的ノモノニ非ス其ノ目的ヨリ見ルモ其ノ特質ヨリ見ルモ寧ロ

協力的且發展的ナリ

二、大東亞共榮圏ノ經濟的特徵

(一) 大東亞共榮圏ハ一邊ヲ大陸、他邊ヲ一連ノ島嶼トシ日

本海、黃海、東南支那海等ヲ内海トスル國家群ニシテ

其ノ經濟的性格ハ大陸的性格ヲ有スル海洋國家群ナリ

(一) 大東亞共榮圈ハ寒帶ヨリ熱帶ニ亘ル國家群ナルモ其ノ

經濟的特徵ハ寧口熱帶的乃至亞熱帶的性格ニアリ

(二) 大東亞共榮圈ハ資源的ニハ國防基礎資源及民生根幹物

資ニ於テ略自給可能ナル外數種ノ特徵アル世界的資源

ヲ有スル自給的且發展的性格ヲ有ス

(四) 大東亞共榮圈ノ人的資源ハ世界人口ノ約四割ヲ占メ其

ノ量ニ於テ豊富ナルノミナラス其ノ勞働單價亦低廉ナ

ル特徵ヲ有ス

(五) 大東亞共榮圈ハ資本、交通手段、技術等ノ分野ニ於テ

ハ他圈ニ比シ劣位ニ在リ

### 三、大東亞共榮圈ノ經濟政策ノ基調

大東亞共榮圈ノ經濟政策ハ當然其ノ理念、目的及其ノ經

濟的特徵ヨリ歸納セラルヘキモノナリ

#### (一) 圈内經濟政策

(1) 圈内經濟ニ於テハ共同目的達成ノ爲必要ナル範圍ニ

於テハ一定ノ綜合的企畫ニ基ク計畫經濟又ハ協力體

制ヲ、又右範圍以外ノ分野ニ於テハ共同目的達成ニ

支障ナキ限り自主經濟ヲ其ノ基調トス

(2) 計畫經濟又ハ協力体制ハ實質的ニハ指導國ノ區處ノ

下ニ一定ノ綜合的企畫ニ基キ行ハルモノナルモ形  
式的ニハ各構成分子間ノ合意ノ方式ニ依ルモノトス

(3) 綜合的經濟計畫ハ目標的、大綱的ナルヲ要シ手段的

部面ハ各構成分子ノ自律ニ委スルモノトス

(2) 計畫經濟ヲ行ヒ或ハ綜合的協力ヲ要スル經濟分野ノ  
主ナルモノ左ノ如シ

1、重要國防資源及民生根幹物資ノ生產及配分

2、重要交通路ノ維持及輸送計畫並ニ重要國防資源

及民生根幹物資ノ輸送

3、勞務ノ有效ナル利用

4、圓ヲ仲介トスル爲替制度ノ圓滑ナル運用及圈内

資金ノ有效ナル利用

5、國防及民生ニ重要ナル關係アル技術ノ利用

#### (二) 對圈外經濟政策

對圈外經濟政策ニ就テハ前述ノ圈内計畫經濟及協力體

制ノ遂行ニ必要ナル範圍内ニ於テ制約ヲ受ケ其レ以外

ノ分野ニ就テハ原則トシテ各國ノ自主ニ委ス、但シ

1、實質上ノ關係ニ於テ爲替ノ運用ニ依リ掣肘ヲ受ク  
ルモノトス

2、必要ニ際シ對圈外經濟的對抗措置ニ付圈内諸國カ  
共同シテ協力措置ヲトル

對圈外經濟活動ハ指導國ニ於テ代表シテ行フ等ノ方式  
ヲ避ケ各構成分子ニ於テ一定ノ綜合計畫ニ基キ之ヲ行  
フモノトス

(イ)交 易

國防及民生ニ重要關係アル物資ノ輸出入及特殊ノ目  
的ヲ有スル輸出入等ハ一定ノ綜合計畫ニ基キ實行セ  
ラル

(ロ)交 通

圈外重要交通路ニ對スル參加、圈内交通路ノ開放等  
ハ綜合的計畫ニ基キ行ハル

(ハ)金 融

對圈外爲替操作、圈外投資及外資誘導等同前

(二)技術ノ交流

國防及民生ニ重要ナル關係アル技術ノ交流ハ計畫的  
ニ之ヲ助長ス

(付記五)

說 明

昭和十八年十月四日 外務省

一、大東亞ノ結集及對外宣傳特ニ對英米外交攻勢ヲ目途トス  
ル大東亞會議ノ開催ヲ豫定シテ同會議ニ於ケル共同宣言  
案及之ニ附隨スル決議案ヲ作成セリ

二、共同宣言案ハ所謂大東亞宣言案ニシテ參加各國ノ大東亞

建設ニ關スル根本方針ヲ共同ニ闡明スルノ趣旨ニシテ其  
ノ内容及体裁ハ大東亞政策ノ準則ヲ示シ特ニ大東亞各國  
民ヲシテ自發的協力ノ念ヲ起サシムルト同時ニ將來ニ對  
スル不安ヲ一掃シ且相互間ノ疑惑ヲ封ズルト共ニ對英米  
外交攻勢ニ有效適切ナラシメンコトヲ期シタリ即チ大東  
亞ガ何人ヨリ見ルモ客觀的ニ公正妥當ナル原則ニ立チ世  
界平和維持ノ一大基礎タリ得ルモノナルコトヲ明ニシ敵  
英米ニ大義名分ナク我ニ之ノ存スル所以ヲ感得セシムル  
ガ如キ措辭ヲ用ヒタリ尙本宣言ハ如上ノ見解ニ基キ融通  
性ヲ保持スル爲條約ノ形式ヲ採ラズ  
三、決議案ハ右共同宣言案ニ關聯シ大東亞ニ對スル英米ノ非  
違ヲ明ニシ戰爭ノ根本原因ヲ究明シテ世界平和維持ニ對

スル我方ノ根本的見解ヲ表明スルト共ニ大東亞共榮圈建設ノ至當ナル所以ヲ説明シ以テ英米ノ猛省ヲ促スト同時ニ大東亞各國民ノ戰爭遂行ニ對スル熱意ノ昂揚ヲ期シタルモノナリ英米特ニ米ハ機會アル毎ニ戰後ノ世界協力ニ對スル方針ヲ聲明シテ自己ニ有利ナル様世界輿論ヲ準備シツツアル現狀ニ鑑ミ右ニ對スル措置トシテモ我方ノ公明正大ナル世界平和維持ニ關スル見解ヲ平易ニ解説シ置クコトハ此ノ際有意義ナリト認ムル次第ナリ

(別紙)

大東亞共同宣言案 昭和十八年十月四日 外務省研究案

大東亞各國ハ相互ニ自主獨立及領土ヲ尊重スルト共ニ善隣友好互助協力ノ關係ヲ確立ゼンコトヲ期ス  
三、大東亞各國ハ外部ヨリノ脅威ト侵略ニ對シ協同シテ大東亞ヲ保衛センコトヲ期ス  
四、大東亞各國ハ民生ノ向上ト相互ノ經濟的安定ヲ圖ランガ爲經濟上相互ニ緊密ニ提携協力スルト共ニ衝平互惠ノ原則ノ下ニ廣ク世界ニ資源ヲ開放シ交易ヲ増進シ世界經濟ノ發達及繁榮ニ協力センコトヲ期ス  
五、大東亞各國ハ相互ニ各民族文化ノ本然ノ特質ヲ尊重シ「アジア」文化ノ昂揚ヲ圖リ以テ世界人文ノ發達ニ寄與センコトヲ期ス  
六、宗教自由ノ原則ハ大東亞各國ニ於テ尊重セラルベシ

(付記六)

大東亞共同宣言案

昭和十八年十月十八日

(欄外記入) 大東亞ヲ他ノ侵略又ハ榨取ヨリ永遠ニ解放シ道義ニ基キ大東亞ニ於ケル和親ノ關係ヲ建設シ惹テ萬邦共榮ノ世界的向上發展ヲ基調トシ大東亞全体ノ共存共榮ト安定ヲ確保スベキ秩序ノ建設ニ協同ゼンコトヲ期ス  
大東亞各國政府代表ハ共同シテ左ノ通り宣言ス  
一、大東亞各國ハ大東亞ヲ永遠ニ解放シ大東亞諸民族ノ自主的向上發展ヲ基調トシ大東亞全体ノ共存共榮ト安定ヲ確保スベキ秩序ノ建設ニ協同ゼンコトヲ期ス

一、大東亞各國ハ大東亞ヲ永遠ニ解放シ大東亞諸民族ノ自主

的發展ヲ基調トシ大東亞全體ノ安定保衛ト共存共榮トヲ

確保スヘキ堅キ決意ヲ有ス

二、大東亞各國ハ相互ニ自主獨立及領土保全ヲ尊重スルト共ニ善隣トシテ平等互助ノ友好關係ヲ確立センコトヲ期ス

三、大東亞各國ハ民生ノ向上ヲ促進シ經濟の安定ヲ圖ランカ爲衡平互惠ノ原則ノ下ニ緊密ナル經濟提携ヲ行フコトニヨリ大東亞全體ノ經濟發展ヲ圖ルト共ニ進ンテ衡平互惠ノ原則ノ下ニ廣ク世界ニ資源ヲ開放シ交易ヲ増進シ併セ

テ國際交通ニ對スル障害ヲ除去シ以テ世界經濟ノ發達及繁榮ニ協力センコトヲ期ス

四、大東亞各國ハ相互ニ固有ノ傳統、宗教、文化ヲ尊重シ更ニ「アジア」本來ノ精神的文明ノ昂揚ヲ圖リ廣ク文化ノ交流ヲ期シ以テ世界人文ノ發達ニ寄與センコトヲ期ス

大東亞各國ハ相提携シテ大東亞戰爭ヲ完遂シ大東亞ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放シ其ノ自存自衛ヲ全フシ道義ニ基ク新秩序ヲ大東亞ニ建設シテ世界平和ノ確立ニ寄與センコトヲ期ス仍テ茲ニ大東亞各國ハ左ノ通宣言ス

五、大東亞各國ハ協同シテ大東亞ノ保全ヲ確保シ其ノ共存共榮ノ新秩序ヲ建設ス

(欄外記入)

大臣ノ第一稿ヲ更ニ大臣ニ於テ修正セラレタルモノ

(付記七)

## 大東亞共同宣言案

昭和十八年十月二十一日

大本營政府連絡會議了解(案)

抑モ世界各國カ各々其ノ所ヲ得相倚リ相扶ケテ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ世界平和確立ノ根本要義ナリ

然ルニ米英ハ自國ノ繁榮ノ爲ニハ他國家他民族ヲ抑壓シ殊ニ大東亞ニ對シテハ飽クナキ侵略搾取ヲ行ヒ大東亞隸屬化ノ野望ヲ逞シウシ遂ニ大東亞ノ安定ヲ根底ヨリ覆サントセリ大東亞戰爭ノ原因茲ニ存ス

大東亞各國ハ相提携シテ大東亞戰爭ヲ完遂シ大東亞ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放シ其ノ自存自衛ヲ全フシ道義ニ基ク新秩序ヲ大東亞ニ建設シテ世界平和ノ確立ニ寄與センコトヲ期ス仍テ茲ニ大東亞各國ハ左ノ通宣言ス

六、大東亞各國ハ協同シテ大東亞ノ保全ヲ確保シ其ノ共存共榮ノ新秩序ヲ建設ス

七、大東亞各國ハ相互ニ自主獨立ヲ尊重シ互助敦睦ノ實ヲ擧ケ大東亞ノ親和ヲ確立ス

八、大東亞各國ハ相互ニ民族間ノ偏見ヲ拂拭シ其ノ傳統ヲ尊重シ大東亞本然ノ文化ヲ昂揚ス

四、大東亞各國ハ互惠ノ下緊密ニ提携シ其ノ經濟發展ヲ圖リ

#### 大東亞ノ繁榮ヲ増進ス

五、大東亞各國ハ萬邦トノ交誼ヲ篤クシ普ク文化ヲ交流シ進  
ンテ資源ヲ開放シテ世界ノ進運ニ貢獻ス

昭和十八年十一月 日

#### 各國代表者名(略)

編　注　本案は十月二十一日の大本營政府連絡會議において差  
戻しとなつた。

#### (付記八)

大東亞會議招請及大東亞共同宣言案ニ對スル參加國ノ  
意囑

##### (1) 中華民國

在華帝國大使ヨリ十月十八日汪主席ニ正式招請狀ヲ手交  
シ更ニ二十五日大東亞共同宣言案ヲ内示シ詳細説明ヲ加  
ヘタル處主席ハ至極結構ナリトテ直ニ同意ヲ表シタリ

##### (2) 「タイ」國

大使不快ノ爲石井參事官ヲシテ十月十七日招請狀ヲ「ウ

イチット」外相ニ手交シ置キタル處ニ十一日「ダムロン」

外相事務管掌ヨリノ公文ヲ以テ「タイ」國政府ハ帝國政

府招請ヲ受諾スル旨並ニ首相ハ健康上現在ノ處長途ノ旅  
行ニ堪ヘサルニ付「ワンワイ」殿下ヲ「タイ」國代表ト

シテ任命シ「ワ」ハ首相ヲ代表シ其ノ首相ノ名ニ於テ又

ハ其ノ代理トシテ行フ一切ノ行爲ニ對シ首相ニ於テ責任

ヲ取ルヘキ旨又「チャイ」少將及「シツト」外務次官ヲ

モ會議ニ參列ノ爲派遣スヘキ旨回答越スト共ニ會議ノ目

的等ニ關スル詳細ハ更ニ在泰帝國大使ヨリ承知シタキ旨

申越シタリ尙右ニ附屬スル「メモランダム」ニ於テ曩ニ

日本側ヨリ要求セル事項即チ「ワンワイ」カ「ピブン」

ノ名代トシテノ地位ヲ有シ其ノ行爲ハ總テ「ピブン」ニ

於テ責任ヲ負フモノナル旨ヲ招請狀ノ回答文中ニ明確ナ

ラシムルコト並ニ會議ノ結果各代表ノ連名ニテ發表スル

宣言ニハ「「ピブン」ノ爲ニ」トシテ代理者ノ名前ヲ發表スル

コトノ「項目ヲ諒承セル旨申越セリ

次テ在泰帝國大使ハ二十五日「タムロン」及「ワンワイ」

ニ對シ大東亞共同宣言案ヲ示シ至急「タイ」國政府ノ意

見回示ヲ得度キ旨申入レタル處「ワ」ハ早速總理ニ報告

ノ上其ノ意図ヲ御知ラセスヘシト述ヘ更ニ自分カ總理代

ノ通り説明方電訓セリ

理トシテ會議ニ於テ開陳スヘキ「タイ」國政府ノ見解ハ目下起草中ナルカ大體内示ヲ受ケタル共同宣言案ト同一「ライン」ニ沿フ様考ヘラルモ宣言案綱領第五ノ共榮圏ト他ノ地域トノ關係ニ關シ第四ニ於テ共榮圏内各國間ノ關係ヲ相互的ノモノタラシメントスル意圖ヲ「レシプロケート」スロケート」ナル文字ヲ用ヒ明示シ居ルト同様第五ニ於テモ相互的タルヘキコトヲ明ニ示スコトセラルニ於テハ宣言全文ニ流ルル正義ノ趣旨ヲ徹底セシメ得ルニ非スヤト考ヘ得トノ個人的感想ヲ漏シタリ

「ワンワイ」ハ更ニ二十六日「ピブン」ト協議ノ結果ナリトテ共同宣言案ハ「タイ」政府ニテ「アクセプタブル」ナル旨「エイド・メモアル」ヲ以テ回答スルト共ニ共同宣言案第五ヲ“*The promotion of reciprocal cultural and*

*commercial intercourse*”ト變更方考慮セラレ度キ旨申越シタリ尤モ「ワ」ハ「タイ」政府トシテハ右變更方ヲ特ニ固執スル次第ニ非ル旨附言セルモ「ピブン」出席ニ關スル「タイ」側トノ折衝經緯ニモ鑑ミ我方意図ヲ傳ヘ置クコト適當ト認メ在泰帝國大使ヲシテ「タイ」側ニ對シ左

### (3) 滿洲國

滿洲國政府ニ於テハ十月二十一日李外交部大臣ヨリ同日附公文ヲ以テ大東亞會議開催竝ニ議題ノ趣ヲ敬承「大東亞建設ノ現段階ニ於テ斯カル會議開催ハ寔ニ意義深キ次第ナルニ付欣然政府代表者ヲ出席セシムルト共ニ貴國政府御提案ノ議題ニ關シテモ贊意ヲ表ス」ル旨回答越セリ

尙大東亞共同宣言案ニ付テモ十月二十七日滿洲國政府ハ

原案通リニテ異議ナキ旨通報シ來レルモ(イ)滿洲國政府ハ

腦部内ニハ日本側ニ於テ御差支ナキニ於テハ適當ノ段階

ニ於テ其ノ代表ヲシテ大東亞會議ヲ毎年一回東京ニ於テ開催セラレ度キ希望ヲ表示スルカ更ニ進ンテ右ニ關スル

決議案ヲ提起セシムル意見モアル處帝國政府ノ意見伺ヒ度キ旨並ニ(ロ)假ニ右決議案提起ニ日本側ニ於テ贊成ナル

モ滿洲國ヲシテ爲サシムルコトハ同國ト帝國トノ特殊關係ニ鑑ミ不適當ナリトセラルニ於テハ中華民國其ノ他

ヲシテ爲サシメ滿洲國ハ之ニ贊意ヲ表スルモ可ナル旨問

合セ來レリ右滿側意見ニ對シ帝國政府ニ於テハ滿側代表

來朝後打合ヲ行フコトセルカ結局滿側ノ希望ヲ認メ會

議第二日目ノ午後議案採擇後ノ際滿洲國代表ヲシテ簡單

ニ「大東亞會議ノ如キ會議ヲ將來ニ於テモ隨時開催セラ

ルルコトハ極メテ有意義ト思考シ且斯カル種類ノ會議開

催ヲ希望スル旨」演説セシムルコトセリ尤モ本提案ハ

決議等ノ形式ニヨリ拘束力ヲ有セシムルコトハ本會議開

催ノ趣旨及本會議ノ性質ニ鑑ミ適當ナラスト認メラレタ

ルヲ以テ右提案ニ對シテハ單ニ各代表カ拍手ヲ以テ贊意

#### (4)「フィリピン」國

在比帝國大使ハ十月十九日「ラウレル」大統領ト會見シ

招請狀ヲ手交セル處「ラ」ハ之ヲ全面的ニ了承シ且「十

日附公文ヲ以テ右ヲ受諾セル旨回答越セリ尙「フィリビ

ン」國政府ハ十月二十八日大東亞共同宣言案ニ對シ其ノ儘ノ形ニテ同意ヲ表セリ

#### (5)「ビルマ」國

十月十九日在蘭貢北澤參事官外務大臣ヲ往訪シ正式招請

狀ヲ手交シタルニ二十一日附公文ヲ以テ「ビルマ」政府

ハ日本政府ノ提案ニ全然同意スルモノニシテ日本政府ノ

招請ヲ欣然受諾スル旨「バー・モウ」總理カ「ビルマ」

代表トシテ會議ニ出席シ協力大臣及東京駐劄「ビルマ」

大使カ本會議ニ列席スヘキ旨並ニ一行ノ氏名ヲ回答シ來

レリ

次テ十月二十七日在蘭貢帝國大使ハ「バ」總理ヲ私邸ニ

往訪シ(「ウ・トン・ウォン」協力大臣同席)共同宣言案

英譯文ヲ手交シ冒頭貴電ノ趣旨ニ依リ詳細説明ヲ加ヘ宣

言案ニ對シ其ノ儘同意スル様極力說得ニ努メタルニ「バ」

## 六 大東亜會議

一、指針

菊號宣傳實施要綱

### 大東亜會議開催に際しての宣伝措置

昭和18年10月31日 閣議諒解

838

ハ本宣言案ニ關スル限り同意ナルカ本宣言ハ英米共同宣言ニ對抗スル意味ヲモ有スルモノナレハ大東亞ノミナラス全世界ノ反英米諸民族(「アラビア」「エヂプト」「パレスタイン」等)ニ呼掛け之ヲ我方ニ誘致スル趣旨ノ文句ヲ附加スルコト適當ト思考セラレ此ノ趣旨ノ提案ヲ會議第二日ノ議案審議ノ際述ヘタシトノ意見ヲ強ク主張シタリ  
右主張ニ對シ大使ハ先方ノ主張ニモ一理ナキニ非ス此ノ上更ニ先方ヲ押ヘ付ケ斯クノ如キ趣旨ノ提案ヲモ拒絕スルコト如何カト思考ノ上其ノ儘トナシ置キタル趣ナリ  
帝國政府ニ於テハ右大使ノ報告ニ基キ「ビルマ」代表一行來朝ノ上納得ノ行ク様打合ヲ遂ケルコトセリ(大東亜會議事務局ノ項參照)

(欄外記入)

大東亞會議開催ニ當リ大東亞各國ノ大東亞戰爭完遂ノ決意ト大東亞建設ニ對スル團結協力トヲ一層強化促進スル

ト共ニ之ヲ中外ニ宣揚シ敵側ノ戰爭目的ヲ覆滅シ其ノ戰意ヲ破碎スルニ努ム

右宣傳實施ニ當リテハ對外效果ヲ主タル目標トスルモ同時ニ國民ノ大東亞建設ニ對スル自信ヲ強化シ其ノ戰意ヲ昂揚スル如ク誘導ス

### 二、宣傳內容

(一)今次會議ノ開會ニ關シ左記ニ依リ宣傳ヲ行フ

(イ)大東亞建設ノ進捗カ結集シテ今次會議開催ニ至レルモノナルコトヲ明ニス

(ロ)會議ニ參集セル各國代表カ何レモ大東亞ノ大立物ニシテ各國民衆ノ大東亞建設ヘノ熱意ヲ代表スルモノナルコトヲ指摘ス

(ハ)米英及重慶ノ戰爭目的ノ覆滅ヲ圖ル

大東亞ニ建設セラルル新秩序カ正義人道ニ則ルモノニシテ大東亞各國カ其ノ共通要望トシテ之カ建設ノ爲協力シ居ルコト及右新秩序カ我現實ノ施策ニ依リ着々實現セラレ居ルコト等ヲ強調シ米英ノ戰爭名目

カ滅失セルコトヲ指摘ス重慶ニ對シテハ日華同盟條

約ニ關スル宣傳要綱ノ要領ニ依ル

(三)今次會議ノ成果ニ關シ左記ニ依リ宣傳ヲ行フ

(イ)今次會議ニ依リ大東亞ノ結集ハ益々強化セラレ我必勝ノ態勢完璧ニ達セルコトト大東亞建設ノ恒久的基礎成リタルコトヲ強調ス

(ロ)大東亞建設綱領確定シ大東亞各國ノ共同理想ハ茲ニ明確トナリ各國ニ於ケル建設ノ熱意ハ益々昂揚セラ

レ何レモ共同理想ノ實現ニ努力すべく其ノ成果ハ期シテ待ツベキモノアルヲ強調ス

### 三、留意事項

(一)大東亞ニ於ケル帝國ノ指導性ヲ直接印象付クルカ如キ書振リヲ爲ササルコト

帝國ノ指導性ニ付テハ我方ヨリ之ヲ他國ニ押付クル如キ言論ハ此際抑止スルモノトス

但他ノ諸國ニ於テ言及シ之ヲ我方ニ於テ引用スルハ妨

ケ無シ

(二)大東亞世界ニ對シ排他的閉鎖的ナルカノ如キ印象ヲ

與ヘサルコト

(三)大東亞共榮圏ノ範圍ニ關シテハ積極的ニ觸ルルヲ避ク

特ニ蘇聯領土ヲ包含セシムルカ如キ印象ヲ與ヘサルコト

ト

四佛印ニハ特ニ觸レサルコト

五大東亞戰爭力人種戰タルカノ如キ印象ヲ與ヘサルコト

### 四、措置

(一)大東亞會議開催ノ事實及各國代表ノ行動ハ當局發表迄之ヲ取扱ハサルモノトス

(二)當局發表以前ニ於テハ會議ニ於ケル首相ノ演說及日華條約締結等ニ關連セシメ大東亞建設ノ進捗ヲ宣傳ス

(三)大東亞宣言ニ關シテハ長期ニ亘リテ其ノ趣旨ヲ反覆宣傳ス

### (欄外記入)

在外使臣へ

編注 本文書は「極東国際軍事裁判関係文書」より採録。



昭和18年11月6日

## 大東亜會議に関する大東亜會議事務局発表

付記一 昭和十八年十一月六日

同宣言英文

二 昭和十八年十一月、大東亜省作成、「大東亜會議演説集」より抜粋

大東亜會議における東條首相演説

三 昭和十八年十一月三十七日調印

「日本國ニ關スル英、米、重慶三國宣言」（カ

イロ宣言）

四 昭和十八年十二月九日発表

カイロ会談に関する井口情報局第三部長談

大東亜會議事務局發表

昭和十八年十一月五日及六日ノ兩日東京ニ於テ大東亜會議

ヲ開催セリ同會議ニ出席ノ各國代表者左ノ通り

日本國

内閣總理大臣 東條 英機閣下

「タイ」國

國民政府行政院院長 汪兆銘閣下

内閣總理大臣 「ピー・ピブン・ソンクラム」

元帥閣下ノ名代トシテ

「ワンワイヤコーン」殿

滿洲國

國務總理大臣 張景惠閣下

「フィリピン」共和國

大統領 「ホセ・ペ・ラウレル」閣下

「ビルマ」國

内閣總理大臣 「バー・モウ」閣下

同會議ニ於テハ大東亜戰爭完遂ト大東亜建設ノ方針トニ  
關シ各國代表ハ隔意ナキ協議ヲ遂ゲタル處全會一致ヲ以テ  
左ノ共同宣言ヲ採擇セリ

大東亜共同宣言

抑々世界各國ガ各其ノ所ヲ得相倚リ相扶ケテ萬邦共榮ノ樂

ヲ偕ニスルハ世界平和確立ノ根本要義ナリ

然ルニ米英ハ自國ノ繁榮ノ爲ニハ他國家他民族ヲ抑壓シ特

中華民國

六 大東亜會議

「大東亞ニ對シテハ飽クナキ侵略擣取ヲ行ヒ大東亞隸屬化

ノ野望ヲ逞ウシ遂ニハ大東亞ノ安定ヲ根柢ヨリ覆サントヤ  
リ大東亞戦爭ノ原因茲ニ存ス

大東亞各國ハ相提携シテ大東亞戦争ヲ完遂シ大東亞ヲ米英  
ノ桎梏ヨリ解放シテ其ノ自存自衛ヲ全ウン左ノ綱領ニ基キ

大東亞ヲ建設シ以テ世界平和ノ確立ニ寄與セシコトヲ期ス  
「大東亞各國ハ協同シテ大東亞ノ安定ヲ確保シ道義ニ基ク  
共存共榮ノ秩序ヲ建設ス

「大東亞各國ハ相互ニ自主獨立ヲ尊重シ互助敦睦ノ實ヲ舉  
ゲ大東亞ノ親和ヲ確立ス

「大東亞各國ハ相互ニ其ノ傳統ヲ尊重シ各民族ノ創造性ヲ  
伸暢シ大東亞ノ文化ヲ昂揚ス

「大東亞各國ハ互患ノ下緊密ニ提携シ其ノ經濟發展ヲ圖リ  
大東亞ノ繁榮ヲ増進ス

「大東亞各國ハ萬邦トノ交誼ヲ篤ウシ人種的差別ヲ撤廢シ  
普ク文化ヲ交流シ進ンデ資源ヲ開放シ以テ世界ノ進運ニ  
貢獻ヘ

(付記一)

## JOINT DECLARATION

It is the basic principle for the establishment of world peace  
that the nations of the world have each its proper place, and  
enjoy prosperity in common through mutual aid and assistance.

The United States of America and the British Empire have  
in seeking their own prosperity oppressed other nations and  
peoples. Especially in East Asia, they indulged in insatiable  
aggression and exploitation, and sought to satisfy their  
inordinate ambition of enslaving the entire region, and finally  
they came to menace seriously the stability of East Asia. Herein  
lies the cause of the present war.

The countries of Greater East Asia, with a view to  
contributing to the cause of world peace, undertake to cooperate  
toward prosecuting the War of Greater East Asia to a successful  
conclusion, liberating their region from the yoke of British-  
American domination, and ensuring their self-existence and self-  
defence, and in constructing a Greater East Asia in accordance  
with the following principles:

1. The countries of Greater East Asia through mutual

cooperation will ensure the stability of their region and construct an order of common prosperity and well-being based upon justice.

(付記 II)

日本國代表東條内閣總理大臣閣下ノ挨拶及所見

(十一月五日)

2. The countries of Greater East Asia will ensure the fraternity of nations in their region, by respecting one another's sovereignty and independence and practising mutual assistance and amity.

3. The countries of Greater East Asia by respecting one another's traditions and developing the creative faculties of each race, will enhance the culture and civilization of Greater East Asia.

4. The countries of Greater East Asia will endeavour to accelerate their economic development through close cooperation upon a basis of reciprocity and to promote thereby the general prosperity of their region.

5. The countries of Greater East Asia will cultivate friendly relations with all the countries of the world, and work for the abolition of racial discrimination, the promotion of cultural intercourse and the opening of resources throughout the world,

and contribute thereby to the progress of mankind.

歐洲ノ動亂常ナキ情勢ニ乘ジテ、米大陸ニ霸權ヲ確立スルニ止マラズ、概ネ米西戦争ヲ契機ト致シマシテ、太平洋及び亞細亞ニ爪牙ヲ伸バスニ至リ、遂ニ第一次世界大戦争ヲ轉機ト致シマシテ、英帝國ト共ニ世界制覇ノ野望ヲ逞シウシ來ソタノデアリマス、而シテ今次ノ世界戦争勃發後ニ於キマシテハ、米國ハ更ニ飛躍シテ、北「アフリカ」、西「アフリカ」、大西洋、濠洲、近東、進ンデ印度方面ニ對シマシテモ、逐次其ノ魔手ヲ伸バシ、英帝國ノ地位ニ取ツテ代ラントシテ居ルノデアリマス。

米英ノ平素唱道致シマスル國際正義ノ確立ト世界平和ノ保障トハ、畢竟歐洲ニ於キマスル諸國家ノ分裂抗爭ノ助長ト、亞細亞ニ於ケル植民地的搾取ノ永續化トニ依ル、利己的秩序ノ維持ニ外ナラナイノデアリマス、而シテ亞細亞ニ於ケル米英ノ遺り方ヲ見マスルニ、彼等ハ政治的ニ侵略シ、經濟的ニ搾取シ、更ニ教育文化ノ美名ニ匿レテ民族性ヲ喪失セシメ、相互ニ相衝突セシメテ、其ノ非望ノ達成ヲ圖ツタノデアリマス、斯クテ亞細亞ノ諸國家諸民族ハ、常ニ其ノ存立ヲ脅威セラレ、其ノ安定ヲ攢亂セラレ、民生ハ其ノ本然ノ發展ヲ抑壓セラレテ今日ニ至ツタノデアリマス、彼

等ノ呼號スル門戶開放、機會均等主義モ、東亞ヲ植民地視スル根本觀念ニ發シタルモノデアリマシテ、實ハ彼等ガ東亞侵略ノ非望ヲ遂ゲンガ爲ノ便宜手段ニ過ギナイノデアリマス、彼等ハ自國ノ領土内ニ於テハ、東亞ノ諸民族ニ對シテ常ニ門戶ヲ閉鎖シ、機會ヲ不均等ナラシメ、交易ヲ阻碍シツツ、只管彼等ノミノ利己的繁榮ヲ追及シタノデアリマス。

顧ミレバ東亞ノ諸國家諸民族ノ間ニ於テ、解放ノ義擧ノ起ツタコトハ、一再ニ止マラナカツタノデアリマスルガ、或ハ米英ノ暴戾飽クナキ武力的彈壓ニ依リ、或ハ彼等ノ異民族統御ノ常套手段デアル所ノ惡辣極マル離間策ニ依リ、多クハ失敗ニ歸シタノデアリマス、此ノ間ニ在リテ日本ノ興隆ハ米英ニ取リマシテハ最モ好マシカラザルモノトナツタノデアリマス、茲ニ於キマシテカ、彼等ハ、一方ニ於テ事毎ニ日本抑壓ノ態度ニ出ヅルト共ニ、他方ニ於キマシテハ日本ト東亞ニ於ケル爾他ノ諸國家諸民族トノ離間ヲ策スルコトヲ以テ、彼等ノ東亞政略ノ要諦トスルニ至ツタノデ

アリマス、蓋シ東亞ノ隸屬化ヲ維持スル爲ニハ、東亞ニ於テ何レカノ國ガ強國トシテ勃興致シマスルコトモ、又東亞ノ諸國家諸民族ノ團結スルコトモ、彼等ニ取り、其ノ最モ不利トスル所デアルカラデアリマス、而シテ斯クノ如キ米英ノ東亞隸屬化ノ野望ハ、特ニ最近數年間ニ於テ愈々惡質露骨トナツテ參ツタノデアリマス、即チ蔣政權ヲ使嗾シテ、日華兩國ノ國交ヲ阻碍シ、其ノ極、遂ニ不幸ナル支那事變ノ勃發ニ至ラシメ、之ガ解決ニ對シテモ有ラユル手段ヲ弄シテ其ノ妨礙ヲ策シタノデアリマス、而シテ今次歐洲戰爭勃發後ニ於キマシテハ、戰爭ノ必要ニ藉口シテ平和的通商ヲ妨碍シ、更ニ進ンデ其ノ本質ニ於テ戰爭ト異ナラザル所ノ經濟斷交ノ手段ニ憩ヘ、他面東亞ノ周邊ニ於テ武備ヲ増強シ、以テ我ニ屈從ヲ強ヒント試ミ、東亞ノ安定ハ根柢ヨリ重大ナル脅威ヲ受クルニ至ツタノデアリマス、斯クノ如キ米英ノ態度ニ拘ラズ、帝國ハ、只管禍亂ノ東亞ノ天地ニ波及スルコトヲ避ケント欲シマシテ、隱忍自重、最後迄和平的交渉ニ依ソテ時局ノ收拾ヲ圖ツテ參ツタノデアリマス、然ルニ米英ハ、何等反省互讓ノ態度ニ出デズ、却テ益々脅喝ト壓迫トヲ強化シテ、帝國ノ存立ヲ危殆ニ瀕セシメタノ

デアリマス、帝國ハ遂ニ自存自衛ノ爲、蹶然起ツテ東亞ニ對スル挑戰ニ應ズルノ已ムナキニ至リ、茲ニ一切ノ障礙ヲ破碎シテ、東亞永遠ノ平和確立ノ爲、國運ヲ賭シテ征戰ニ邁進スルコトトナツタノデアリマス。

大東亞戰爭開始セラレマスルヤ、帝國陸海軍ハ、善謀勇戰、開戰後半歲ナラズシテ克ク東亞ノ全地域ヨリ米英ノ侵略勢力ヲ驅逐掃蕩致シタノデアリマス、大東亞各國ハ、或ハ宣戰ヲ布告シテ共ニ戰ヒ、或ハ緊密ニ戰爭完遂ニ協力シツツアリマシテ、今ヤ大東亞諸民族ノ自覺ト熱情トハ澎湃トシテ大東亞ノ天地ニ漲リ、内ニ於キマシテハ各國相信ジ相和シ、外ニ對シマシテハ米英ノ反攻ヲ擊摧シテ、自存自衛ヲ全ウシ、以テ大東亞永遠ノ安定ヲ確立スル爲、勇躍邁進シツツアルノデアリマス。

惟フニ、今次ノ戰爭ハ大東亞ノ全民族ニ取リマシテハ實ニ其ノ興廢ノ岐ルル一大決戰デアリマス、此ノ戰ニ勝チ抜クコトニ依リマシテ、始メテ大東亞ノ諸民族ハ、永遠ニ其ノ存立ヲ大東亞ノ天地ニ確保シテ、共榮ノ樂ヲ偕ニ致シマスルコトガ出來ルノデアリマス、洵ニ大東亞戰爭ノ完遂こそ大東亞新秩序建設ノ確立ヲ意味スルモノデアリマス、素

ヨリ米英ハ、其ノ恃ミトル物質的戰力ヲ擧ゲテ大東亞ニ反攻ヲ繰返スコトハ當然デアリマス、大東亞ノ諸國家ハ、其ノ全力ヲ盡シテ之ヲ徹底的ニ破碎シ、更ニ彼等ニ痛擊ヲ加ヘ、以テ戰爭ヲ完遂シテ、大東亞永遠ノ安定ヲ確保シナケレバナラナイノデアリマス、此ノ秋ニ當リマンテ、帝國ハ緒戦ニ獲得セル戰略的優位ニ立ツテ、雄渾ナル作戰ヲ續行シテ居ルノデアリマス、而シテ國內ニ於キマシテハ此ノ雄渾ナル作戰ニ呼應致シマシテ、愈々國內態勢ヲ整備シ、特ニ最近之ガ決戰化ヲ圖リ、眞ニ一億一心、必勝ノ確信ノ下ニ強韌ナル鬪志ヲ以テ、飽ク迄モ此ノ大戰爭完遂ニ邁進致シテ居ルノデアリマス。

茲ニ各位ニ依ツテ代表セラレマスル所ノ大東亞諸國モ亦帝國ト策應シ、其ノ全力ヲ擧ゲテ宿敵米英ノ反抗ヲ擊摧シ、以テ大東亞永遠ノ安定ヲ圖ラントスル決意ノ鞏固ナルモノアルコトヲ私ハ確信スルモノデアリマス。

大東亞ニ於ケル共存共榮ノ秩序ハ、大東亞固有ノ道義的、精神ニ基クベキモノデアリマシテ、此ノ點ニ於テ、自己ノ繁榮ノ爲ニハ不正、欺瞞、搾取ヲモ敢テ辭セザル米英本位ノ舊秩序トハ、根本的ニ異ナルモノデアリマス。

大東亞各國ハ互ニ其ノ自主獨立ヲバ尊重シツツ、全體トシテ親和ノ關係ヲ確立スベキモノデアリマス、相手方ヲ單ニ手段トシテ利用スル所ニハ、親和ノ關係ヲ見出スコトハ出來ナイノデアリマス、親和ノ關係ハ、相手方ノ自主獨立ヲ尊重シ、他ノ繁榮ニ依ツテ自ラモ繁榮シ、自他共ニ其ノアルト信ズルノデアリマス、而シテ特ニ關係深キ諸國ガ互ニ相扶ケテ各自ノ國礎ニ培ヒ、共存共榮ノ紐帶ヲ結成スルト共ニ、他ノ地域ノ諸國家トノ間ニ協和偕樂ノ關係ヲ設定致シマスルコトハ、世界平和確立ノ最モ有效ニシテ且實際の方途デアルト申サネバナラスト存ズルノデアリマス。

大東亞ノ各國ガ、有ラユル點ニ於テ離レ難キ緊密ナル關係ヲ有シマスルコトハ、否定シ得ザル事實デアリマシテ、斯カル關係ニ立ツテ、大東亞ノ各國ガ協同シテ大東亞ノ安定ヲ確保シ、共存共榮ノ秩序ヲ建設致シマスルコトハ、各國共同ノ使命デアルト確信スルノデアリマス。

大東亞ニ於ケル共存共榮ノ秩序ハ、大東亞固有ノ道義的、精神ニ基クベキモノノデアリマシテ、此ノ點ニ於テ、自己ノ繁榮ノ爲ニハ不正、欺瞞、搾取ヲモ敢テ辭セザル米英本位ノ舊秩序トハ、根本的ニ異ナルモノノデアリマス。

次ニ大東亞ノ建設ニ關スル帝國政府ノ基本的見解ヲ申述ベタイト存ジマス。

抑々世界各國ガ各々其ノ所ヲ得、相倚リ相扶ケテ、萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニ致シマスルハ、世界平和確立ノ根本要義デ

本來ノ面目ヲ發揮スル所ニノミ生ジ得ルモノト信ズルノデアリマス。

由來大東亞ニハ優秀ナル文化ガ存シテ居ルノデアリマス、殊ニ大東亞ノ精神文化ハ、最モ崇高、幽玄ナルモノデアリマス、今後愈々之ヲ長養醇化シテ廣ク世界ニ及ボスコトハ、物質文明ノ行詰リヲ打開シ、人類全般ノ福祉ニ寄與スルコト尠カラザルモノアリト信ズルノデアリマス、斯カル文化ヲ有シマスル各國ハ、相互ニ其ノ光輝アル傳統ヲ尊重致シマスルト共ニ、各民族ノ創造性ヲ伸暢シ、以テ大東亞ノ文化ヲ益々昂揚セネバナラスト考フルノデアリマス。

更ニ大東亞ノ各國ハ、民生ノ向上、國力ノ充實ヲ圖ル爲、互惠ノ下ニ緊密ナル經濟提携ヲ行ヒ、協同シテ大東亞ノ繁榮ヲ増進スペキモノト信ズルノデアリマス、大東亞ハ米英多年ノ搾取ノ對象トナツテ來タノデアリマスルガ、今後ハ經濟的ニモ自主獨往、相倚リ相扶ケテ其ノ繁榮ヲ期サナケレバナラヌト思フノデアリマス。

斯クノ如クニシテ建設セラルベキ大東亞ノ新秩序ハ、排他的ノモノデハナク、廣ク世界各國トノ間ニ、政治的ニモ、經濟的ニモ、將又文化的ニモ積極的ニ協力ノ關係ニ立チ、

以テ世界ノ進運ニ貢獻スベキモノデアリマス、口ニ自由平等ヲ唱ヘツツ、他國家、他民族ニ對シ抑壓ト差別トヲ以テ臨ミ、他ニ門戶開放ヲ強ヒツツ、自ラハ杉大ナル土地ト資源ヲ壟斷シ、他ノ生存ヲ脅威シテ顧ミズ、世界全般ノ進運ヲ阻碍シテ來マンタ米英從來ノ遣リ方トハ全ク趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマス。

道義ニ基ク大東亞ノ新建設ハ、現ニ戰塵ノ眞只中ニ在ツテ着々トシテ實現ヲ見ツツアルノデアリマス、然ルニ米英側ノ印度ニ對シマスル遣り口ハ果シテ如何デアリマセウカ、今ヤ英國ノ彈壓ハ、日ニ月ニ其ノ度ヲ加ヘ、又最近ニ於テハ米國ノ野望モ加ハリ、彼等ト印度民衆トノ軋轢乖離ハ愈々激化シ、印度四億ノ民衆ハ言語ニ絶スル苦惱ヲ續ケテ居ルノデアリマス、特ニ最近之ニ依ソテ招來セラレタル空前ノ飢饉ハ、米英自ラモ之ヲ認ム所デアリマス。

斯クテ印度ニ於キマシテハ志アル者ハ悉ク牢獄ニ投ゼラレ、無辜ノ民衆ハ總テ飢エニ泣イテ居ルノデアリマス、是正ニ世界ノ悲劇デアリ、人類共同ノ痛恨事デアリ、義憤ニ燃ユル我々大東亞民族ノ斷ジテ放置シ得ザル所デアリマス、時ナル哉、「スバス・チャンドラー・ボース」氏ノ蹶起スル

アリ、之ニ呼應シテ内外ノ印度人士ハ起チ上リ、茲ニ印度

假政府ノ樹立ヲ見、印度獨立ノ基礎ハ現ニ成ツタノデアリマス、帝國ハ曩ニ印度獨立ノ爲、有ラユル協力ト支援トヲ致スベキコトヲ中外ニ闡明致シタノデアリマス、大東亞ノ諸國家モ亦齊シク印度獨立完成ノ爲、心カラナル協力ヲ寄セラルコトヲ私ハ確信致スモノデアリマス、米英ガ所謂

大西洋憲章ニ依ツテ標榜セル所ト、現ニ印度ニ對シテ實際ニ執リツツアル事實トヲ、彼等ハ如何ナル論理ニ依ツテカ之ヲ調和セントスルモ、ソレハ不可能ノ事デアルト存ズルノデアリマス、併シナガラ吾人ハ今更彼等ノ矛盾ヲ見テ驚クモノデハナイノデアリマス、全世界ノ人々ハ今日迄米英ノ表面ニ掲グル美シキ看板ト、其ノ肚裏ニ包藏スルモノトノ矛盾ヲ、餘リニ多ク見セツケラレ、欺瞞ト偽裝ト迷彩コソ、彼等米英ノ本性デアルコトヲ已ニ熟知致シテ居ルノデアリマス、假令敵側ノ爲ス所ガ如何ナルモノデアルニセヨ、帝國ハ大東亞各國ト相携ヘテ天地ノ公道ヲ歩ミ、大東亞ヲ

米英ノ桎梏ヨリ解放シ、大東亞各國ト協同シテ大東亞ノ復興、興隆ヲ圖ランコトヲ期スルノミデアリマス、今ヤ大東亞諸國家諸民族ノ結集ハ成リ、萬邦共榮ノ理想ニ向ツテ大

東亞新建設ノ巨歩ハ堂々發足致シタノデアリマス。

翻ツテ歐洲ノ情勢ヲ見マスルニ、盟邦獨逸ハ愈々國民的結束ヲ鞏固ニシ、必勝ノ信念ヲ以テ米英擊滅ト歐洲建設トニ邁進シツツアリマシテ、洵ニ力強キ限リデアリマス。

大東亞戰爭ハ實ニ破邪顯正ノ聖戰デアリマシテ、大義名分炳乎トシテ我ニ在リ、正義ノ向フ所敵無ク、究極ノ勝利ノ我ニ歸スベキコトハ我等ノ信ジテ疑ハザル所デアリマス。茲ニ大東亞諸國ガ、衷心ヨリ大東亞戰爭ニ協力セラレツツアルコトニ對シマシテ、深甚ナル謝意ヲ表シマスルト共ニ、今後益々苛烈ノ度ヲ加ヘントスル戰局ニ對處シ、帝國ハ大東亞諸國ト共ニ歐洲盟邦トノ提携ヲ愈々固メ、必勝ノ確信ノ下、不拔ノ鬪志ヲ以テ、如何ナル困難モ之ヲ克服シ、我等ノ共同使命トスル此ノ大東亞戰爭ヲ完遂シ、大東亞建設ヲ完成致シマシテ、眞ノ世界平和ノ確立ニ貢獻センコトヲ固ク期スル次第デアリマス。

### (付記三)

「日本國ニ關スル英、米、重慶三國宣言」(カイロ宣言)

(註)本宣言中ノ中華民國トハ重慶政權ガ呼ブ中華民國

ヲ謂フ

千九百四十三年十一月二十七日「カイロ」ニ於テ署名  
(本宣言ノ歐文ハ千九百四十三年十二月一日附「ロンドン、  
タイムズ」ヨリ之ヲ採リタリ)

「ローズヴェルト」大統領、蔣介石大元帥及「チャーチル」

總理大臣ハ各自ノ軍事及外交顧問ト共ニ北「アフリカ」ニ

於テ會議ヲ終了シ左ノ一般的聲明發セラレタリ

「各軍事使節ハ日本國ニ對スル將來ノ軍事行動ヲ協定セリ

三大同盟國ハ海路、陸路及空路ニ依リ其ノ野蠻ナル敵國ニ

對シ假借ナキ彈壓ヲ加フルノ決意ヲ表明セリ右彈壓ハ既ニ

増大シツツアリ

三大同盟國ハ日本國ノ侵略ヲ制止シ且之ヲ罰スル爲今次ノ

戰爭ヲ爲シツツアルモノナリ右同盟國ハ自國ノ爲ニ何等ノ

利得ヲモ欲求スルモノニ非ズ又領土擴張ノ何等ノ念ヲモ有

スルモノニ非ズ

右同盟國ノ目的ハ日本國ヨリ千九百十四年ノ第一次世界戰

爭ノ開始以後ニ於テ日本國ガ奪取シ又ハ占領シタル太平洋

ニ於ケル一切ノ島嶼ヲ剥奪スルコト並ニ滿洲、臺灣及澎湖

島ノ如キ日本國ガ清國人ヨリ盜取シタル一切ノ地域ヲ中華

## 六 大東亜會議

民國ニ返還スルコトニ在リ  
日本國ハ又暴力及貪慾ニ依リ日本國ガ略取シタル他ノ一切  
ノ地域ヨリ驅逐セラルベシ

前記三大國ハ朝鮮ノ人民ノ奴隸狀態ニ留意シ艤テ朝鮮ヲ自

由且獨立ノモノタラシムルノ決意ヲ有ス

右ノ目的ヲ以テ右三同盟國ハ同盟諸國中日本國ト交戰中ナ  
ル諸國ト協調シ日本國ノ無條件降伏ヲ齎スニ必要ナル重大  
且長期ノ行動ヲ續行スベシ」

（付記四）

米英重慶三國「カイロ」會談ニ關スル井口情報局

第三部長談(十二月九日)

米英兩國並ニ重慶政權ヲ代表スル「ルーズヴェルト」、

「チャーチル」、蔣介石ノ三者ハ去ル十一月二十二日カラ六

日間北「アフリカ」ノ「カイロ」ニオイテ會議ヲ重ネタ。

ソノ結果彼等カ世界ニ向ツテ公表シタ「コミニニケ」ハ三

國共通ノ戰爭目的トシテ日本ノ無條件降伏ト日本ノ領土ノ

奪取トニヨツテ日本ヲ永ク三流國ノ地位ニ釘付ケスヘキコ

トヲ述ヘテ居ル。從來屢々行ハレタ米英側ノ會談ニ比ヘテ

コノ「カイロ」會談ノ持ツ特徵ハ其カ太平洋竝ニ東亞ノ戰局ヲ直接ノ目標トシテキル點ト重慶ニ對シ頻リニ媚態コレ努メテキル點テアル。米英兩國ノ指導者ニシテ「アジア」ノ國民ニ對シカクノ如キ謙抑ヲ極メタ態度ニ出テタコトハ不幸ニシテ吾々ハ之ヲ知ラナイノテアソテ、吾々ハムシロコノ宣言ヲ通シテ今ヤ敵ノ陣營ニ於イテスラ米英ノ不當ナル優越力否定サレ、「アジア」國民ノ正當ナル地位カ恢復サレツツアルノヲ見ル。タトヒソレカ政略上ノ形式テアルニセヨ、重慶政權ヲ以テ『三大聯合國ノ一ツ』トシテ待遇シナイ以上コレヲ米英側ニ繫キ止メルコトノ不可能ナル日カ遂ニ來タノテアル。

然シ乍ラ若シモ米英兩國カ單ニ一片ノ宣言ニ止マラス「アジア」各國ニ對シテ眞ニ平等公正ナル態度ニ出テナラハ少クトモ太平洋竝ニ東亞ニ於ケル戰爭ハ發生ヲ見ナカツタニ違ヒナイ。日本ハカツティカナル意味ニセヨ太平洋ヲ超エテ合衆國ノ米大洲政策ニ干渉シタコトモナケレハソノヤウナ意圖ヲ示シタコトモナイ。

然ルニホシイママニ國境ノ觀念ヲ遠ク東亞ニ延長シテサナカラ世界ノ警察官ノ如キ態度ヲモツテ日本ノ正當ナル民

族的發展ノ途ヲ妨害シ、遂ニ經濟封鎖ノ暴舉ヲ敢テシタノハ合衆國ノ指導者テアル。マタ中國ニ於イテ最モ殘虐ナル武力ヲモツテ奪掠シタ權益ヲ擁護センカタメニ支那事變ノ終始ヲ通シテ公然タル援蔣行爲ヲ續ケテ敵性ヲ示シタモノハ「イギリス」テアル。更ニ「ビルマ」、「フイリピン」、舊蘭領印度等大東亞ノ全地域ハ少クトモ大東亞戰爭ノ以前ニアツテハ事實上米英兩國ノ支配下ニオカレテキタノテアツテ、大東亞ノ各國、各民族ハスヘテ米英ノ權力ニ屈從スルカ然ラサレハコレニ對スル反抗者トシテ迫害ト制裁ヲ蒙ル他ハナカツタノテアル。而モカクノ如キ人類ノ道義上許スヘカラサル米英ノ壓制ハ悉ク近代ノ初頭以來彼等カソノ優越セル武器ノ力ニヨツテ築キ上ケタモノテアリ、實ニ他民族ノ犠牲ニヨツテノミ自己ノ繁榮ヲ圖ルトイフ「アングロサクソン」一流ノ帝國主義的政策コソ世界ニオケル不安ト戰爭ノ原因ナノテアル。

然ルニ大東亞戰爭ニ於ケル二ヶ年有餘ノ經驗ハ米英兩國ノ指導者ヲシテニツノ切實ナル教訓ヲ得ルニ至ラシメタ。即チ其一ツハ太平洋竝ニ東亞ニ於ケル巨大ナル日本ノ戰力テアリ、他ノ一ツハ一度米英ノ桎梏カラ解放セラレタ大東

亞各國、各民族カ何等ノ強制ヲ加ヘラレルコトナク、アタカモ水ノ低キニツクカ如ク翕然トシテ一大團結ヲ遂ケントシツツアル事實テアル。

元來合衆國ノ國民大衆ニトツテハ、今次ノ戰爭ハソノ生存上何等本質的關係ヲ持タヌノテアツテ、ソレ故ニコソ合衆國ニオケル戰爭挑發者ノ一群ハ國民ヲ戰爭ニ動員スルタメ凡ユル術策ヲ弄セサルヲ得ナカツタ。彼等ハ先ツ日本國民ヲモツテ天性ノ好戰國民トイヒ、日本ノ自衛政策ヲモツテ侵略行爲トナン、次イテ日本ヲ經濟的ニモ軍事的ニモ弱小國トナスコトニヨツテ合衆國國民ヲ安易ナ戰爭支持者ニ轉化セシメタ。從ツテ彼等カツフサニ經驗シタ如キ太平洋ニオケル苦戰ト敗北ノ連續ハヤカテ國民ノ抗戰心理ニ重大ナル混亂ト動搖ヲ與ヘスニハ措カナイ。而モ彼等カ太平洋ニオケル日本ヘノ反攻ヲ強化セントスル場合必要缺クヘカラサル條件ハ重慶政權ノ利用ニヨル大陸基地ノ獲得テアル。

重慶政權ノ内部ニ於テサヘコノ影響ハ顯著ナルモノカアリ、最近ニオケル行政院副院長孔祥熙或ハ合衆國カラ歸朝シタハカリノ評論家林語堂ノ演說等ハ日本ニ對スル抗戰下ニアリナカラ尙東亞民族トシテノ自覺カ米英ニ對スル新シイ批判ヲ生ミ出シツツアル一ツノ傾向ヲ示スモノテアル。米英兩國カ重慶政權ヲ迎ヘルニ今更ノ如キ媚態ヲ示ササルヲ得ナイノハ大東亞ノ新シイ事態ニ即應シテモスレハ米英ノ陣營ニアルコトヲ懷疑シ批判セントスル重慶治下ノ民心ヲイカニモシテ抑止懷柔セントスル政略上ノ必要ニヨル

レタ當時ニ比シテ全ク革命的變化ト發展ヲ遂ケツツアル。殊ニ去ル十一月五日カラ二日間ニワタツテ東京ニ開カレタ大東亞會議トソノ結果採擇セラレタ大東亞共同宣言ノ如キハ米英側ノ凡ユル誹謗ト中傷ニモカカハラスイカニ大東亞ノ各國カ相互ノ獨立ヲ尊重シ、而モ大東亞共同ノ敵ニタイスル防衛ニ協力スルコトニオイテ積極且ツ誠實ヲ極メツツアルカヲ全世界ニ闡明シタモノテアル。而モ大東亞ノ建設カ決シテ戰爭終了後ノ空手形テハナクシテ、實ニ生々シイ戰火ノ中ニ着々トシテ實現サレツツアルコトハコノ宣言ニ無限ノ權威ヲ與ヘルモノテアル。

重慶政權ノ內部ニ於テサヘコノ影響ハ顯著ナルモノカアリ、最近ニオケル行政院副院長孔祥熙或ハ合衆國カラ歸朝シタハカリノ評論家林語堂ノ演說等ハ日本ニ對スル抗戰下ニアリナカラ尙東亞民族トシテノ自覺カ米英ニ對スル新シイ批判ヲ生ミ出シツツアル一ツノ傾向ヲ示スモノテアル。米英兩國カ重慶政權ヲ迎ヘルニ今更ノ如キ媚態ヲ示ササルヲ得ナイノハ大東亞ノ新シイ事態ニ即應シテモスレハ米英ノ陣營ニアルコトヲ懷疑シ批判セントスル重慶治下ノ民心ヲイカニモシテ抑止懷柔セントスル政略上ノ必要ニヨル

モノテアルト思ヘル。

以上述ヘタ如ク「カイロ」會談ナルモノハ深刻ナ軍事上ノ打撃ニ惱ミツツアル米英側ニ對シテ勝利ト建設ノ理念ヲ明示シタ大東亞共同宣言カ與ヘタ一種ノ投影ニ過キナイノテアル。而モコレニヨツテ米英ノ戰爭目的ハイヨイヨソノ正體ヲ暴露スル結果トナツタ。即チ米英ハ日本ノ領土ヲ奪略シ、日本ヲ永久ニ三流國トシテ釘付ケニスルコトヲ戰爭目的トシテ公言シテキルノテアル。コレコソ大東亞共同防衛ノ中樞ヲナス日本ヲ打倒スルコトニヨツテ全東亞民族ヲ再ヒソノ脚下ニ蹂躪セントスル非望ヲ示スモノテ、米英ハ彼等カ嘗テ東亞ニ於イテ享受シタ支配ト獨占ノ復活ヲ妨ケルモノカ何ヨリモ日本ノ實力テアルコトヲ痛感シテキルカ故ニ、ソノ日本ノ實力破壊ニ全力ヲ傾倒セントシテ居ルノテアル。彼等カ日本ノ打倒ヲ極メテ強調シナカラ日本ニヨツテ解放セラレタ大東亞諸民族ニ對スル措置ニツイテ何等觸レルトコロノナインハヒト度日本ノ實力破壊ニ成功シタ曉ハ直チニコレ等大東亞諸民族ヲソノ壓制下ニトリ戻スコトヲモツテ當然ノ歸結ト考ヘテキルカラテアル。

而モ米英トシテハカカル日本ニタイスル戰爭カ「困難ニ

シテ長期ニ亘ル」コトハ認メサルヲ得ナイノテアリ、ソノ戰爭ノ犠牲ト負擔トヲ同シ東亞民族ノ一ツタル重慶、中國ニタインシテ強制セントシツツアルノテアル。合衆國ノ如キハ六十數年以前ノ立法ニカカル中國移民禁止法ノ撤廢ニサヘ實ニ前後一年ノ日子ヲ費シタ程「アジア」民族ニ對スル差別觀念ヲ固持シテ讓ラナイ「カイロ」會談ニ示サレタ米英ノ意圖ハ大東亞ニ對スル米英ノ飽クコトヲ知ラヌ侵略ノ野心テアリ、コレヲ復活スル唯一ノ方途トシテ先ツ日本ノ打倒ヲ企テ而モソレヲ東亞民族ソノモノノ犠牲ニオイテ行ハントスル、コノ三點ニツキルノテアル。

吾々ハ今日米英自ラノ口カラ大東亞破壊ノ非望ノ公言セラルルノヲ聽キ、大東亞諸民族ノ共同防衛ヲ更ニ強化スヘキコトヲ痛感スルト共ニ、實ニ世界人類ノ平和ト福祉ノタメニモゾノ非望ヲ破碎スルコトノイカニ緊要ナルカラ知リ愈々米英ニ對スル戰意ノ昂揚ヲ禁シ得ナイノテアル。



## リピン議会での演説について

マニラ 11月26日後4時35分発

本省 11月27日前11時00分着

### K第二二號

比律賓獨立後最初ノ通常議會ハ十一月二十五日午前十時開會「ラウレル」大統領ハ閣僚ヲ從ヘテ十時三〇分全員ノ拍手裡ニ議場ニ臨ミ約一時間半ニ亘リ眞劍ナル態度ヲ以テ熱

辯ヲ振ヒタルカ前半ニ於テ大東亞會議ニ關スル報告ヲ行ヒ共同宣言ニ關シテハ「議員各位ニ於テ既ニ御承知ノ通リナルモ其ノ重大ナル意義ニ鑑ミ敢テ之ヲ繰返ヘス次第ナル」旨冒頭シテ五原則ヲ順次讀ミ上ケ且之ヲ敷衍說明シ

第一原則ニ付テハ共榮圈カ特定ノ一國ノ繁榮ヲ目的トスルモノニ非ラサルコト

第二原則ニ付テハ本原則ニ依ル自主獨立主權ノ尊重比律賓及「ビルマ」ノ獨立ハ名義ノミナリトナスモノノ蒙ラ啓クモノナルカ比律賓ニ於テ獨立ノ實質的內容ノ存セサルコトヲ非難スルモノナキニ非ラサルモ現在ハ獨立後猶一ヶ月ヲ經タルニ過キサル過渡的時期ニシテ吾人カ努力ヲ怠ラサルニ於テハ如何ナル國ト雖モ比律賓ニ對シ本原則ヲ無視スル

ヲ得サルニ至ルヘキコト

第三原則ニ付テハ「フイリツ・ビン」カ「フイリツ・ビン」人ノ傳統及特質ニ從テ發展スヘキモノナルコト

第四原則ニ付テハ一國カ他國ヲ壓倒スルハ正義ニ反シ斯カル場合ニハ互惠ノ原則ハ存立スルヲ得サルヘキモ共榮原則ハ共榮圈ニ於テハ何レノ國モ互惠ノ原則ヲ遵守セントスルモノナルコト

モノナルコト

第五原則ニ付テハ共榮圈ハ他ノ諸國ヨリ分離孤立セントシ或ハ他ノ民族ニ挑戦セントスルモノニ非サルモ白人カ有色人種ヨリ優秀ナリトナスハ斷シテ吾人ノ承服シ得サル所ナリ云々ト強調シ屢々拍手ヲ受ケ更ニ吾人カ自由獨立ヲ欲スル如ク他ノ民族ノ獨立運動ニモ同情セサルヘカラストテ印度獨立運動ヲ支持シ又滯京中日本側及他ノ諸代表ヨリ豫期以上ニ鄭重ナル取扱ヲ受ケ東條首相ニ對シ島内旅行ノ不便ヲ訴ヘタル所旅客機ノ寄贈ヲ約束セラレタル旨報告シタリ次テ過去一ヶ月ニ亘ル政府ノ施策ヲ列舉シ行政府ト立法府トノ協力ノ必要ヲ說キ尙本議會ニ對スル勸告トシテ

(イ)食糧問題ニ關シ各州何レモ食糧ノ自給自足ヲ圖ルコトヲ要シ獨立國タルモノハ一々食糧ニ關シ日本ニ縋ルヘキニ

非ラスト強調シ個々ノ地域ニ於ケル過剩米ノ管理並ニ休

閑地ノ強制耕作ニ關スル大統領令ノ承認ヲ求メ

(口) 薬品不足ニ關シ島内薬用植物研究ノ必要ヲ證キ

(マ)

(ハ) 治安問題ニ關シテハ大體改善ノ一途ヲ辿リ居ルモ獨立國

タル以上自力ニテ治安ヲ維持スヘキモノニシテ州知事ハ  
巡警隊ノ充實擴充ニ務ムヘキ旨要望シ又内務省内ニ治安  
部ヲ新設シ其ノ長官ニハ次官ノ地位ヲ與ヘ治安ノ責任ニ  
任セシムヘキコト

(二) 交通問題ニ關シホニン及牛車、馬車ノ利用及特定日ニ於  
ケル汽車ノ旅客輸送禁止モ已ムヲ得サルヘキヲ說キ

(イ) 課稅及財政ニ關シ歲入增加ト國民ノ保護トノ双方ヨリ考  
量スヘキコト及中央銀行其ノ他ノ件ニ付テハ中央企畫局  
ノ審議ヲ待チ居ルコト

(ウ) 政府ノ改組ニ關シテハ去ル特別議會以來現在迄改組ハ行  
ハサリシモ必要起ラハ(例へハ經濟省新設ト言フカ如キ)  
其ノ都度審議ヲ求ムヘシ云々ト述ヘタリ「テキスト」空  
送ス

~~~~~

841 昭和19年9月9日

## 第八十五回帝国議会における重光大東亞相の

### 戦争目的に關する演説

戦争目的ニ關スル質問ニ答ヘテ

戦争目的ト云フコトハ實ニ重要ナ問題デアリマシテ、私ハ  
所謂戦争目的ヲ論ズルコトハ、政策面カラ見マシタ戦争ノ  
魂ヲ論ズルコトダト思フノデアリマス。戦争ハ何ノ爲ニ戰  
ハレテ居ルカ、ドウ云フ目的ヲ以テナサレテ居ルカ、是ハ  
内ハ國民ノ心ヲ結集スル精神的ノモノデアリマスシ、又大  
東亞地域ニ於テハ大東亞十億ノ民衆ヲ結集シ、世界ニ向ツ  
テハ日本ノ立場ヲ闡明シテ最モ大キナ武器トナルベキモノ  
ダラウト考ヘルノデアリマス。

此ノ機會ニ少シク戦争目的ニ付テ、私ノ考ヘヨ率直ニ且ツ  
或ル意味ニ於テ詳細ニ述べサシテ戴キタイト思ヒマス。帝  
國ガ自存自衛ノ戰爭ニ從事シテ居ル、而シテ又太東亞自身  
ガ今日自存自衛ノ死活ノ戰爭ニ從事シテ居ル。帝國ガ今日  
自存自衛ノ戰爭ヲ致シテ居ルト云フコトニ付キマシテハ、  
日本人トシテ誰モ之ニ疑問ヲ挾ム者ガナイノミナラズ、敵

國ニ至ルマデ之ヲ承認スル者ガ起ツテ來タノデアリマス。

現ニ「イギリス」ノ内閣ノ最モ有力ナル閣員ガ、而モ公ノ席上デ、眞珠灣ノ攻撃ハ米國ガ日本ヲ戰ニ挑發シタ結果デアルト云フヤウナ意味ヲ述べテ居ルノデアリマス。眞珠灣ニ至ルマデニ日本ハ經濟的ニハ「アメリカ」カラ既ニ戰爭ヲ吹キ掛ケラレテ居ツタコトハ、御承知ノ通リデアツテ、「アメリカ」ハハツキリト經濟戰爭云々ヲ口ニシテ居ルノデアリマス。

一體戰爭ヲ政策ノ道具ニ使ハナイト云フコトハ、現ニ「ケロッグ・パクト」ニ規定サレテ居ルコトデアリマスガ、米國ハ、眞珠灣前ニ日本ヲ締メ殺サウトシテ、既ニ經濟戰爭ニ著手ヲシテ居ツタノデアリマス。是ガ戰爭ノ原因デアリマス。經濟戰爭ヲ否認シナイ戰後ノ國際機構ハ、平和ヲ維持スル所以デハナイト思ヒマス。米國ガ他ノ與國ヲ率ヰテ、今日戰後ノ國際機構ヲ「アメリカ」ニ於テ議論ヲ致シテ居リマス。其ノ内容ハドウ云フモノデアルカ、之ヲ極ク簡潔ニ述ベルナラバ、世界ノ要所要所ヲ、軍事的ノ意味ニ於テモ、又資源的ノ意味ニ於テモ彼等ノ間ニ分割占領ヲスルト云フコトガ第一デアリマス。特ニ米國ハ今日太平洋ノ領域

ハ自分ニ必要ナ所ハ、何處モ軍事上ノ基地ナリ、經濟上ノ基地ナリトシテ占領スルト云フコトヲ、殆ンド公然ト述べ居ルコトハ、周知ノ通リデアリマス。此ノ占領シ分割シテ居ル所ヲ、彼等ハ飽ク迄モ將來ノ爲ニ維持スルト云フコトガ第二點デアリ、而シテ之ヲ變更セントスル企テガ何處カニアリトスルナラバ、之ヲ以テ平和ヲ破ルモノデアルトシテ之ヲ懲ラス、即チ之ニ對シテ警察ヲヤラウト云フノガ第三ノ點デアツテ彼等ノ戰後世界ノ國際機構ノ考へ方ハ斯様ナモノデアリマス。即チ、彼等ハ戰爭ノ原因トナリ、又正義公平ノ觀念ノ基礎トナルヤウナ、經濟的ノ公平ナ取扱ヒト云フヤウナコトハ毫モ考ヘテ居ラヌノデアリマス。彼等ノ目的トシテ居ル所ハ獨占デアリ、又制霸デアルノデアリマス。ソレヲ戰後ニ長ク維持シテ行カウト云フノガ彼等ノ戰後經營デアル。之ニ對シテ日本ハ、自存自衛ノ戰爭ニ從事シテ居ルト云フコトハ今申述ベタ通リデアリマスガ、更ニ我戰爭目的ニ付テ、即チ今次戰爭ノ意義ニ付テハ私ハハツキリシタ日本ノ意思ヲ、此ノ席ヲ拜借シテ世界ニ向ツテ聲明ヲ致シタイト思フノデアリマス。

今次ノ戰爭ハ、帝國ノ正當ナル國際的地位ヲ否認セントス

ル米英ノ非望ニ依ツテ強請セラレタ自存自衛ノ戰爭デアツテ、是レ即チ帝國ガ國運ヲ賭シテ死活ノ鬪爭ニ從事シテ居ル所以デアル。國際正義ヲ世界ニ布キ、恒久平和ヲ確立シ得ルヤ否ヤハ、又懸ツテ本戰爭ノ歸趨ニ存スルノデアリマス。帝國ノ所期スル所ハ、世界ニ對スル獨占制覇ノ野望ヲ粉碎シテ、一切ノ偏見ヲ除去シ、何人ヲモ排斥セズ、何人トモ協力シ、以テ各民族ノ各々其ノ所ヲ得ル世界ノ親和ヲ實現セントスルノデアリマス。多年米英勢力ニ依ツテ侵略擄取セラレタ「アジア」ハ、今ヤ解放ノ曙光ヲ仰グヤウニナリ、東亞ノ安定ハ保衛セラレ、復興ノ事業モ亦其ノ緒ニ就クニ至ツタノデアリマス。其ノ立ツテ居ル基礎ハ昨年十一月六日ノ大東亞宣言デアルノデアリマシテ、帝國ノ大東亞建設ノ目的ハ之ニ盡シテ剩ス所ガナイノデアリマス。併シ更ニ我ガ戰爭目的トシテソレヲ基礎トシテ、左ノ五點ヲ世界ニ聲明シテ帝國ノ嚮フ所ヲ明ニシ度イト思フノデアリマス。

其ノ第一點ハ恒久平和ノ一般的ノコトデアリマシテ、國際間ニ於テハ政治的ニハ平等ニ、經濟的ニハ互惠ヲ主旨トシテ善隣友好ノ關係ヲ發展セシメ、以テ各民族國家相互親和ノスルト云フコトハ、國際的ノ感情ヲ疎通スルコトニ有益ノ天地ヲ拓イテ、恒久平和ヲ確立セントスルコトヲ期スルノガ當然デアラウト考ヘマス。隨ヒマシテ次ニ第二點トシテ、民族主義ノ政策ヲ尊重致シマシテ、各民族國家ヲシテ各々其ノ所ヲ得セシメルト云フ政策ヲ生ムコトハ當然デアリマス。而シテ第三點トシテハ、内政不干涉ノ點デアリマシテ、國ノ大小ヲ問ハズ、相互ニ主權及ビ獨立ヲ尊重スベク、統治ノ形式ト其ノ指導理念ハ各國ノ内政問題タルニ鑑ミマシテ、各國各々其ノ信ズル所ヲ行フコトヲナスベキガ當然デアリマシテ、他國ハ之ニ干渉スベキモノデハナイト云フ主義デアリマス。第四點ハ經濟方面デアツテ、經濟自由ノ原則デリマス。(アヌカ)經濟ノ分野ニ於キマシテハ協力ト開放トヲ趣旨トシナケレバナラヌ、之ヲ以テ世界親和ノ基礎トシテ、之ニ貢獻センコトヲ期スベキモノデアツテ、互惠ノ原則ニ依リ通商交通ノ自由竝ニ資源ノ相互開放ヲ實現スルコトガ、當然デアラウト思ヒマス。最後ニ第五點ト致シマシテ、文化交流ノ點デアリマス。相互ニ固有ノ文化ヲ理解スルハ、世界ノ平和ト進運トニ貢獻スル所以ナルコトニ顧ミマシテ、文化ノ國際交流ニ關シテ、是ガ促進ノ爲ニ協力ヲスルト云フコトハ、國際的ノ感情ヲ疎通スルコトニ有益

デアラウト考へマス。

斯様ナコトハ今日迄帝國ノ戰爭目的トシ、又對外政策ノ基礎トシテ、繰返シ繰返シ述ベラレ、且ツ又行ハレテ居ツタ所デアリマス。大東亞宣言ノ趣旨モ斯様ニ煎ジ詰メレバ煎ジ詰メラレル。斯ル戰爭目的ハ我ガ肇國ノ精神ニ合致スルモノデアリマシテ、此ノ正義ノ政策ニ信念ヲ持チ、此ノ正義ノ戰爭目的ヲ飽ク迄遂行スル所ニ於テ、茲ニ必勝ノ信念ガ彌ガ上ニモ盛リ上ル譯ダト信ジマス。

此ノコトニ付キマシテ、私ハ更ニ稍々進ミマシテ、一言支那問題ニ入りタイト思ヒマス。ソレハ非常ニ重要ナ問題ダト思ヒマス。米國ハ支那ヲ救濟スル爲ニ戰ツテ居ルト云フコトヲ、頻リニ言フノデアリマスガ、米國ノ戰爭目的破產ノ今日ノ狀態ニ於キマシテ、果シテ米國ガ支那ノ救濟主トナリ得ル資格ガアリマセウカ、又ナリ得ルデアリマセウカ。米國ハ今日支那ニ軍事基地ヲ、戰時ハ無論戰後ニ亘ツテモ持タナケレバナラスト言ツテ居ルノデアリマス。「フイリピン」ニ於ケル海軍、空軍ノ軍事基地ハ無論ノコト、彼等ノ或ル者ハ臺灣、琉球ニ付テモ左様ナ方面ノコトヲ議題ニ供シテ居ルノデアリマス。斯様ナ狀況デアリマスノデ、米

國ハ今日世界制覇ノ爲ノ植民地戰爭ニ從事シテ居ルト言ツテ差支ヘナイノデアリマス。帝國及ビ東亞ニ取ツテハ、自分ノ家鄉ヲ護ル自存自衛ノ戰爭デアルト云フコトハ、前議會ニ於テモ申上ゲタコトガアルト思ヒマス。帝國ハ今皇土ヲ護ラントシテ居ル。大東亞地域ノ十億ハ自分ノ家鄉ヲ護ラントシテ居ル。即チ鄉土ノ戰爭デアリ自存自衛ノ戰爭デアルコトガ、ハツキリト分ルノデアリマス。「アメリカ」ハ懸軍萬里世界ノ制覇ヲ目的トシテ、軍事上、經濟上ノ基地ヲ世界各地ニ置クト云フ政策ヲ執ツテ居ル、即チ植民地帝國主義的戰爭ニ從事シテ居ルト云フコトガ、ハツキリ分ルノデアリマス。之ニ由ツテ之ヲ觀レバ支那ニ對スル米國ノ政策モ亦明瞭トナルノデアリマス。彼ガ重慶ヲ援助スルト云フノハ、正シク此ノ政策實行ノ爲ニ重慶ヲ利用シテ居ルノデアル。ソレガ日本ニ對スル戰爭遂行ノ爲デアルコトハ、今日當然デアリマスガ、ソレダケニ止マルノデナクシテ、重慶ヲ利用シテ、彼ガ東亞ニ於ケル戰後ノ地盤ヲ、今日ヨリ築カウトシテ居ルニアルコトハ言フヲ俟タヌノデアリマス。若シ重慶ガ巧ク行カナケレバ延安ニ行ツテ、延安政權ヲ利用シヨウトシテ居ルノデアリマス。最近ニ戰時經

濟局長「ネルソン」、前陸軍長官「ハーレー」ト云フ二人

ヲ支那ニ派遣致シテ居リ、經濟的ニハ「ネルソン」ヲ使ヒ、  
政治的ニハ「ハーレー」ヲ使ツテ、將來永遠ノ策ヲ講ゼン  
トシテ居ル模様デアリマス。

斯様ナ事態ニ於キマシテ、之ヲ我ガ對支政策ニ比較シテ見  
ルコトガ必要デアルト思フノデアリマス。對支新政策以來  
發展シタ日本ノ大東亞政策ハ、御承知ノ通リニ、大東亞宣  
言デ明カニナツテ居リマス。更ニ又日支同盟條約ノ締結ニ  
依ツテハツキリシテ居リマス。帝國ハ大東亞諸國、諸民族  
トハ協力親和ノ意思コソアレ、何等領土的ノ野心ハナイノ  
デアリマス。支那ニ於テハ支那ガ和平スレバ、日本軍ハ全  
部撤兵ヲスルト云フコトマデ約束シテ居ルノデアリマス。

又日本ノ作戰目的ハ、今日重慶ヲ目的トシテ居ルノデハナ  
イ、英米ノ侵略勢力ガナクナレバソレデ宜イノデアツテ、  
後ハ支那ハ支那人デヤルベキモノデアルト云フコトヲ明瞭  
ニシテ居ルノデアリマス。帝國ハ今次ノ戰爭ニ依ツテ帝國  
自身ノ自存自衛ヲ全ウスルト云フノミナラズ、「アジア」  
民族、又東洋民族ガ永遠ニ解放セラレ、又復興セラレルコ  
トヲ庶幾シテ居ルノデアツテ、且又ソレデナケレバ日本自

身ノ自存自衛モ達シ得ラレナイノデアリマス。

今日支那ノ狀況ハ今申述ベタ通リノ狀況デアリマス。米國  
ノ政策ガ軍事ト共ニ萬ガ一デモ成功スレバ、支那ハドウナ  
リマスカ。日本ノ對支政策ハ極メテ明瞭デアルノデアリマ  
ス。今日支那ハ支那人ニ依ツテ、民族的ニ解決セラルベキ  
時期デハナイカト考ヘルノデアリマスカラ、支那人ノ奮闘  
ヲ大イニ促サナケレバナラヌノデアリマス。今日ノ支那程  
支那人ニ取ツテ重要ナ時期ハ私ハナイヤウニ考ヘマス。支  
那トシテハ大イニ將來ニ付テ奮發スル所ガナケレバナラヌ、  
斯ウ思フノデアリマス。  
(以下省略)

842 昭和20年3月17日 最高戰爭指導會議決定

### 〔第二次大東亞會議開催ニ關スル件〕

付記一

昭和二十年三月二十九日、最高戰爭指導會議

決定

第一次大東亞會議開催中止について

二 作成日、作成局課不明

〔大東亞大使會議〕

●第二次大東亞會議開催ニ關スル件

四月中旬ヲ期シテ東京ニ於テ第二次大東亞會議ヲ開催ス  
之カ爲至急準備ヲ爲スモノトス

理由

來ル可キ反樞軸側桑港會議開催ニ對抗シ積極的ニ對敵政治  
攻勢ヲ展開スルト共ニ決戦段階ニ際スル大東亞ノ結集ヲ一  
層強固ナラシムル爲今般「タイ」國「アパイウォン」總理  
來朝ヲ機トシテ第二次大東亞會議ヲ開催スルコト機宣<sup>(宣)</sup>ニ適  
スルモノト認メラル

(付記一)

最高戰爭指導會議決定

昭和二十年三月二十九日

本月十七日本會議ニ於テ決定シタル大東亞會議ハ其ノ後ノ  
情勢ニ鑑ミ暫ク之ヲ延期ス

第二次大東亞會議開催ニ關スル件

一、第二次大東亞會議開催ニ關スル件(別紙)附議セラレ外相  
ヨリ右別紙「理由」ニ基キ説明ヲ加フルト共ニ會議ノ議  
題トシテハ差當リ大東亞共同宣言ヲ出發點トスル大東亞  
ノ協力事項等ヲ考慮シ居ル旨述ベタリ、  
二、本件ニ關聯シ尙左ノ如キ問題ガ審議セラレタリ、  
(一)招請ノ範圍ニ付テハ前回出席國ノ外、今次獨立ヲ宣言  
セル印度支那ニ於ケル安南、「カンボヂヤ」、「ルアン  
プラバン」竝「インドネシア」等ノ各代表ヲモ招致ス

ルコトニ意見一致セリ、

(二)尙右ニ關聯シ陸相ハ此ノ際是非「インドネシア」獨立ヲ實現シ度旨述へ外相ハ之ヲ支持セリ。

三、大東亞會議ノ準備事項ニ關シ左ノ如ク審議セラレタリ、

(一)外相ヨリ最モ困難ナル交通輸送問題ニ付テハ陸海軍ニ於テ充分手配アリ度旨述へ結局一國(一代表部)ニ一機ヲ充テルヘク、代表部、隨員、日本側案内役ヲ含メ人數ヲ嚴ニ制限スルコト必要ナリトノ結論ニ到達セリ。

(二)首相ヨリ本會議ノ準備ハ總テ外相ノ手許ニ於テ行ヒ關係官廳ヨリ援助スルコト可然シト述べ外相之ヲ諒承シ

事務機構ニ關シテハ最高會議幹事、外務省政務局長及

大東亞省總務局長ヲ加ヘ主管當局トシ適宣幹事補佐ヲ

シテ補助セシムルコトヲ提議シ、全員ノ諒承ヲ得タリ。

(三)尙宿舍會議場等ニ付テハ周到ナル準備ヲ爲シ以テ招請

セル賓客ニ不快ヲ與ヘサルコト肝要ナリトノ意見出テ

全員諒承セリ。

然ルニ其ノ後ノ戰局ノ進展ニ伴ヒ交通輸送問題ハ其ノ困難ヲ増シ來レル爲、第二次大東亞會議開催ハ延期ノ止ムナキ

ニ至リ、三月二十九日開催セラレタル最高戰爭指導會議ニ於テハ次ノ如ク決定セラレタリ。

## 第二次大東亞會議開催ノ件

其ノ後發生シタル情勢ニ依リ旅行ノ危險著シク增加シタルヲ以テ手配困難トナリタルニ付キ、會議開催ヲ延期スルコトトナレルモ大使會議的ノモノヲ開クヤ否ヤハ外相ニ於テ考究スルコトニ諒解ヲトゲタリ、

右審議ニ伴ヒ外務省及大東亞省ニ於テ大東亞大使會議開催ヲ決定シ諸般ノ準備ニ着手シタル次第ナリ。

## 二、大使會議ノ開催

右ニ依リ二十年四月二十三日大東亞各國大使會議ヲ開催セリ。

帝國政府側ヨリハ東鄉外相兼大東亞相ヲ始メ、隨員トシテ外務省政務局長、大東亞省總務局長、陸軍省軍務局長、海軍省軍務局長、情報局第三部長、各國側ヨリハ王滿洲國大使、蔡中華民國大使、「トイ・モン」ビルマ大使、「ヴィヂット」泰國大使、「バルガス」比島大使以下隨員、外ニ陪

席者トシテ自由印度假政府代表ラームマ・ムルティ氏等三十余名出席ノ下ニ開會セラレ、

劈頭東鄉外相ハ大東亞戰爭ノ完遂竝ニ變轉スル世界戰局ニ對處スル帝國政府ノ所見開陳ヲ兼ネテ會議招來ノ挨拶ヲ爲シ、次デ本會議ノ眼目トスル共同聲明作成ノ件ニツキ提案ノ理由ヲ説明、之ニ對スル各國大使ノ意見開陳ヲ求メタリ。斯クテ各國大使ノ眞摯ナル意見ノ交換討議ヲ行ヒタル結果、眞ノ世界新秩序建設ノ爲ノ指導原則ヲ重ネテ中外ニ闡明スルコトトナリ全會一致ヲ以テ(一)政治的平等人種的差別ノ撤廢(二)國家獨立尊重竝ニ内政不干涉(三)殖民地的民族ノ解放(四)經濟ノ互惠平等(五)文化交流(六)侵略防止(七)大國專制ノ排除竝ニ劃一的世界平和機構打破ノ七大指導原則ヲ盛リシ共同聲明ヲ採擇セリ。

斯クテ右七大指導原則ヲ指標トシテ大東亞ノ各國ハ飽ク迄專制獨占差別ヲ排除シ、正義ヲ基調トスル眞ノ世界秩序建設ニ共同ノ戰爭ヲ戰ヒ抜ク決意ト之ガ強力ナル實踐方途ヲ闡明シタリ。

就中公開セル午后ノ本會議ニ於テ、「バルガス」比島大使ヨリ東印度獨立完成支援ノ提議アリ之ヲ採擇可決、次テ

「ヴァイデツト・ワタカン」泰國大使ヨリ印度支那諸國獨立支援ノ提議アリ之ヲ採擇可決シ更ニ王允卿滿洲國大使ヨリ戰局ノ現段階ニ鑑ミテ此種會議再開方ノ要望提議ガアリテ之モ異議ナク可決最後ニ帝國政府代表ヨリ印度假政府ニ對シ本會議ノ討議内容竝ニ決定及決議通報方ニ關スル提議ヲナシタル處之レモ亦滿場一致可決セラレタリ。斯カル諸決議ノ採擇サレタルコトハ大東亞諸國ガ政治的結合カラ前進シ金融、貿易、交通、勞働等ノ實質的諸部面ニ於テ更ニ緊密性ヲ加重スル契機ヲ形成スベキ成果ヲ舉ケタルモノト言ヒ得ベシ

### 三、大使會議共同聲明ノ採擇

會議終了後同日、大使會議書記局ニ於テ次ノ如キ發表ヲ爲シタリ

#### 書記局發表

日本國外務大臣兼大東亞大臣竝ニ在京滿洲國、中華民國、ビルマ國、タイ國及フィリピン共和國各大使ハ本國政府間ノ豫備的協議ニ基ツキ大東亞戰爭完遂ノ方途及共同戰爭ニ

基ヅク世界秩序建設ノ理念ニツキ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行  
ヒタル結果本廿三日ノ會議ニ於テ満場一致左ノ如キ共同聲  
明ヲ採擇セリ

### 共同聲明

大東亞各國ハ米英ノ飽クナキ侵略ニ對シ相携ヘテ大東亞ヲ

米英ノ桎梏ヨリ解放シ、其ノ自存自榮ヲ全ウセンガ爲凡ユ

ル艱難ヲ克服シテ共同戰爭ノ完遂ニ邁進シ今日ニ及ベリ、

然ルニ米英ハ強力ヲ以テ中立諸國ヲ壓迫シテ之ヲ戰爭ノ具

ニ供シ名ヲ他國ノ解放ニ藉リテ其ノ勢力範圍ノ擴大ト内政  
干涉トヲ恣ニシ、更ニ敵對スル諸國ニ對シテハ國家ノ存立、  
民族生存ノ基礎ハ素ヨリ其ノ固有ノ文化ヲモ抹殺セント企

圖シツツアリ、米英ガ今日抱懷シツツアル其ノ戰後計畫ナ

ルモノハ凡ユル政治的粉飾ニモ拘ラズ專ラ強力ヲ基礎トシ

テ自己ノ欲スル秩序ヲ強制擁護セントスルモノニシテ、米

英ハ國際政治ヲ其ノ專制下ニ置キ、恣ニ全世界ノ警察ニ當

ラントシ、又世界經濟ヲモ壟斷シ、以テ帝國主義的世界支

配ヲ愈々恒久化センコトヲ策シツツアリ、斯くて爾余ノ各

國各民族ハ其ノ生存ト繁榮トノ爲公正且均等ノ地位ヲ保障

セラレズ、特ニ大東亞民族ニ對シテハ依然トシテ偏見、差  
別觀ヲ露呈シテ變ル所ナシ、彼我ノ戰爭目的ニ於ケル決定  
的相違ハ實ニ米英ガ斯カル不正ナル國際秩序ヲ飽ク迄維持  
強化セントスルニ反シ、大東亞ノ各國ハ斯カル專制、獨占、  
差制ヲ排除シ、飽ク迄正義ヲ基調トスル眞ノ秩序ヲ建設セ  
ント欲スル點ニ存ス、

大東亞各國ハ曩ニ共同宣言ヲ發シテ大東亞戰爭ノ意義ト目  
的トヲ闡明セルガ、今ヤ米英ノ暴力ニ依リ國際正義ト人類  
ノ福祉トガ全ク蹂躪セラレントシツツアルヲ默視シ得ズ、  
茲ニ大東亞各國ハ其ノ抱懷スル共同ノ戰爭目的ニ基キ、眞  
ノ世界秩序建設ノ爲ノ指導原則ヲ重ネテ中外ニ明ナラシメ、  
一方之ヲ阻止破壞セントスル米英ノ非望ニ對シテハ、飽ク  
迄其ノ總力ヲ結集シテ戰爭ヲ完遂セントスル牢固タル決意  
ヲ新ニ表明セントス、

一、國際秩序確立ノ根本的基礎ヲ政治的平等、經濟的互惠及  
固有文化尊重ノ原則ノ下、人種等ニ基ク一切ノ差別ヲ撤  
廢シ、親和協力ヲ趣旨トスル共存共榮ノ理念ニ置クベシ  
二、國ノ大小ヲ問ハズ政治的ニ平等ノ地位ヲ保障セラレ、且  
其ノ向上發展ニ付均等ノ機會ヲ與ヘラルベク、政治形態

ハ各國ノ欲スル所ニ從ヒ、他國ノ干涉ヲ受クルコトナカルベシ

三、植民地的地位ニ在ル諸民族ヲ解放シテ各々其所ヲ得シ

メ、俱ニ人類文明ノ進展ニ寄與スベキ途ヲ拓クベシ

四、資源、通商、國際交通ノ壟斷ヲ排除シテ經濟ノ相互協力

ヲ圖リ、以テ世界ニ於ケル經濟上ノ不均衡ヲ匡正シ、各

國民ノ創意ト勤勞トニ即應シタル經濟的繁榮ノ普遍化ヲ

圖ルベシ

五、各國文化ノ傳統ヲ相互ニ尊重スルト共ニ、文化交流ニ依

リ、國際親和竝二人類ノ發展ヲ促進スベシ

六、不脅威、不侵略ノ原則ノ下、他國ノ脅威トナルベキ軍備

ヲ排除シ、且通商上ノ障害ヲ除去シ武力ニ依ルハ固ヨリ、

經濟的手段ニ依ル他國ノ壓迫、乃至挑發ヲ防止スベシ

七、安全保障機構ニ付テハ、大國ノ專斷竝ニ全世界ニ瓦ル劃

一的方法ヲ避け、實情ニ即シタル地方的安全保障ノ体制  
ヲ主体トシ、所要ノ世界的保障機構ヲ併用スル秩序ヲ樹  
立シ且不斷ニ進展スル世界各般ノ情勢ニ即應シ、國際秩  
序ヲ平和的ニ改變スルノ方途ヲ啓クベシ

#### 四、採擇ノ諸決議

##### 第一 印度支那諸國ノ獨立完成支援ニ關スル決議

大東亞共同宣言ノ本旨ニ鑑ミ先般獨立ヲ宣言セル安南國、「カンボジア」國及「ルアン・ラバーン」國ガ速ニ其ノ欲スル形態ニ於テ新國家トシテノ實ヲ完成シ大東亞ノ有力ナル一翼トシテ相俱ニ共同ノ理想實現ニ邁進センコトヲ切望ス。

##### 第二 東印度ノ獨立達成支援ニ關スル決議

大東亞共同宣言ノ本旨ニ鑑ミ東印度民族ガ其ノ不撓ノ努力ト日本側ノ好意的支援トニ依リ速ニ獨立準備ヲ完了シ以テ其ノ獨立ノ宿望ヲ達成スルニ至ランコトヲ切望ス

##### 第三 大東亞會議ノ常設的連絡機關ニ關スル決議

大東亞戰爭完遂ト大東亞建設ノ爲ノ協力ヲ當時緊密ナラン  
ムル見地ヨリ大東亞會議ヲ隨時開催スルコト極メテ有意義  
ナルニ鑑ミ大東亞大使會議ヲ定期又ハ隨時開催スルコトニ  
依リ大東亞會議ノ有效ナル運營ニ資スル常設的連絡機關タ  
ラシムルコトヲ切望ス

第四 印度假政府へ本會議ノ討議内容並ニ決定及決  
議通報方ニ關スル決議

印度ノ解放ハ大東亞ノ共同ノ關心事ニシテ大東亞各國ハ之  
ガ爲自由印度假政府ニ依リ行ハレ居ル鬪爭ノ有ラユル方法  
ヲ以テ支援セムコトヲ欲スルニ依リ本會議ニ於ケル討議内  
容竝ニ本會議ニ於テ採擇セラレタル決定及諸決議ヲ同政府  
ニ通報シ其ノ贊同ヲ勸奨ス